茶之湯三傳集　二

476

茶之湯三傳集巻之二

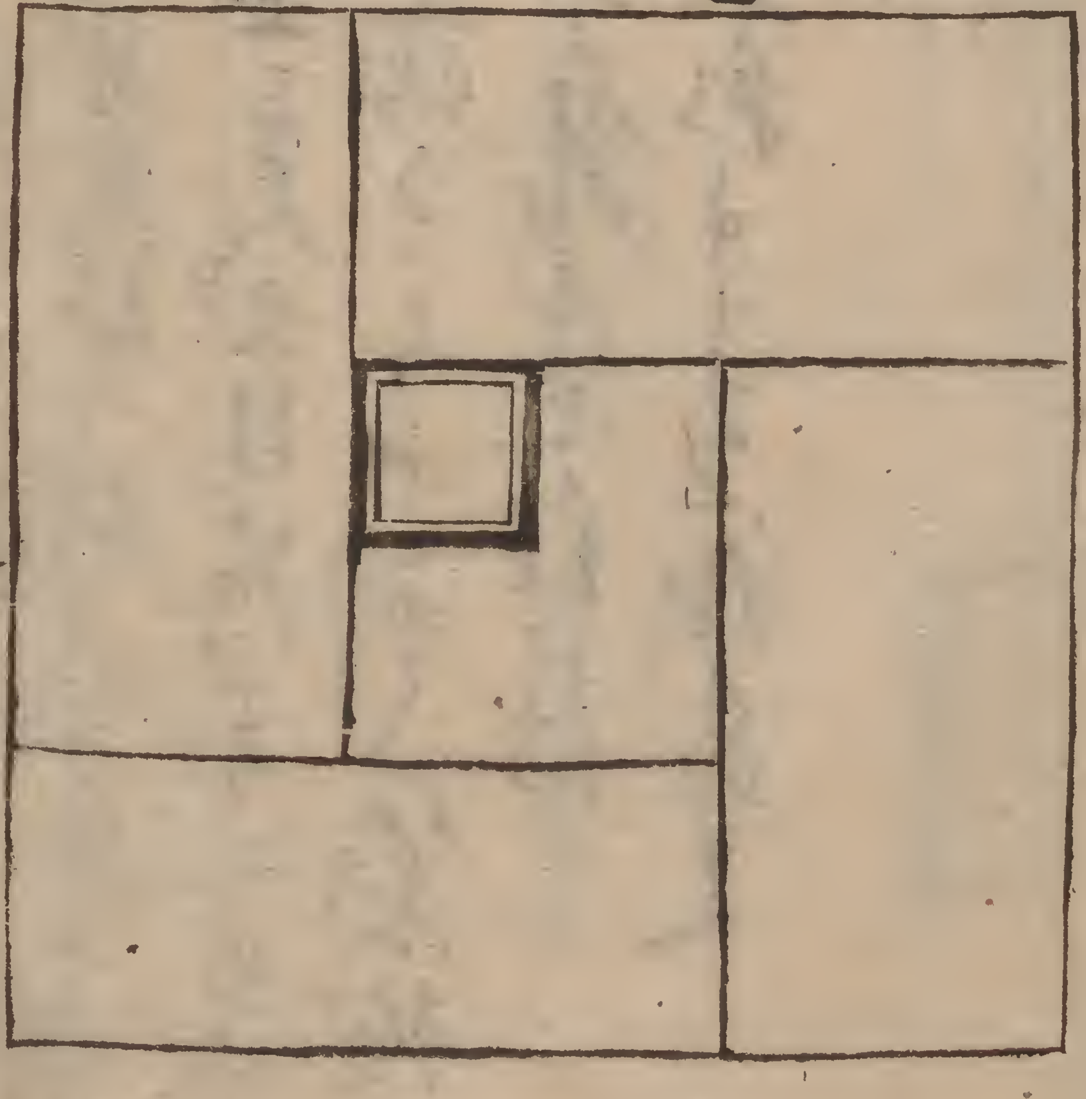
四畳半座敷之圖
四畳半本勝手冬之手前茶入譍答事
三畳大座敷之圖
三畳大目勝手冬之手前茶入譍答事
一畳半座敷之圖
一畳半本勝手出炉手前之事
一畳半本勝手夜之手前之事
一畳半角炉くし事之手前之事
四畳半右勝手炭手前壷之譍答事
三畳大右勝手手前之事

一畳台目下右勝手出炉手まへの事
一畳台目半右勝手上炉踏手まへの事
一畳台目半右勝手角炉其外手まへの事
一畳台目半右勝手角炉踏手まへの事
同畳台目半右勝手左座言答之事

棚物之部
同畳台目下大見屏點之事
同小見屏點之事
同畳台目半小及臺手まへの事
同畳台目半楼櫻棚手まへの事
同畳台目半傀棚其外手まへの事

同畳台目下袋及茶箱手まへの事
同畳台目下織部好の事
同畳台目下織部好内勝内ニ而手まへの事
三畳大一畳半利休好の事
同畳台目手炉菓子の事
風炉手前の事
風呂踏手まへの事
菓子本勝手置の事
長板手まへの事

一此座敷を四畳半といふ事ハ、右此座敷にて紹鴎
時迄有来る四畳半の寸法を違へ、此寸法を半畳増して中
此寸法に炉を一
尺四寸にして炉縁
角なし、内丸く室
自然にして鎖べし。十
分けさる也。其時に
鎖此方に自在掛
也と云々。但利休此



時に至て炉縁一尺四寸にして土段一寸を四方にし
内九寸四方に広めさせ、御所炉を居て炉中此

厳を先き心にして鎖を切合する也故炉の上三尺
ある事ハたとひハ鳥もなくしても十あるべし尤見る事も
地より起る凡を云又ハ自在の鎖の事也云鎖ハ此数云
三ハかくし炉の上三尺ハ大目ノ如くにして見るに付て一
此ハ天は棚物を荘るによつて鏡の数顕なる也
中の道ハ右の物也秘口伝
一此ハ法を入る事ハ心得有之

空色とまか御物名ともの茶入此為に各
一ゑことひもなお此時ハ水指を勝手
縁より指出下に置我は下に居て水
指の縁とまん
立る也茶入
茶碗指出帛腰
に居て茶入を
置大方に縁
て茶碗を下に置棚下に置くと居て大方に立る也
し茶碗分けくとし水指中に茶入茶碗とん
別茶入を縁に置之抱立飯水盆此内一葉を移

客方

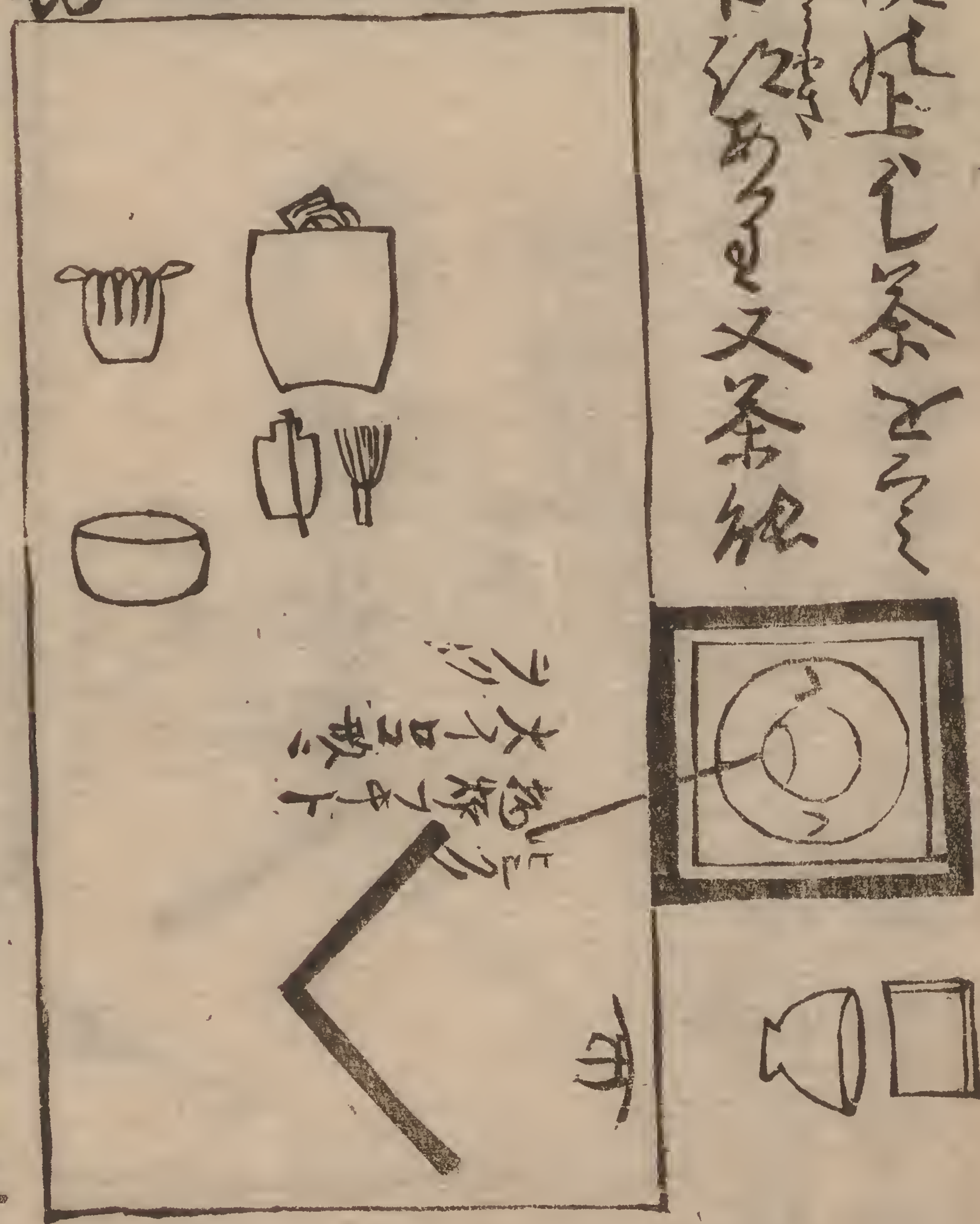
入持ある大目の内へ入あと戸をしめて水盈器のそく搔き
先びやくをなし其の左の膝の上に
置なし蓋置の器のそくに置左
ある柄杓をとり
て其蓋置にかけ
是ずるひする
器に口傍をきよめ
柄杓へ座直
行て口傍なる茶碗の出ス茶筅器のよこに置手を
茶入の下に置あと先ず偖茶筅分長さ持ち
りき上ぬなし上なる置とききをとも茶入の胴にうけ

りせし偖当の左の膝へ向をむしに向をなと懸け
なし中へ入れ柄杓の茶入下に置
銚の口をむし水指の通に置
然る帛巾の
出し置きあれ
帛るなし茶入
持上中ぬき
左に茶入器
の下へなし帛巾を渡にて左にかさなし茶筅の
巾ひ茶入にうけ口傍を帛巾をよく拭なし茶
筅の器のそをのよに左の帛巾をなしの水指の盈

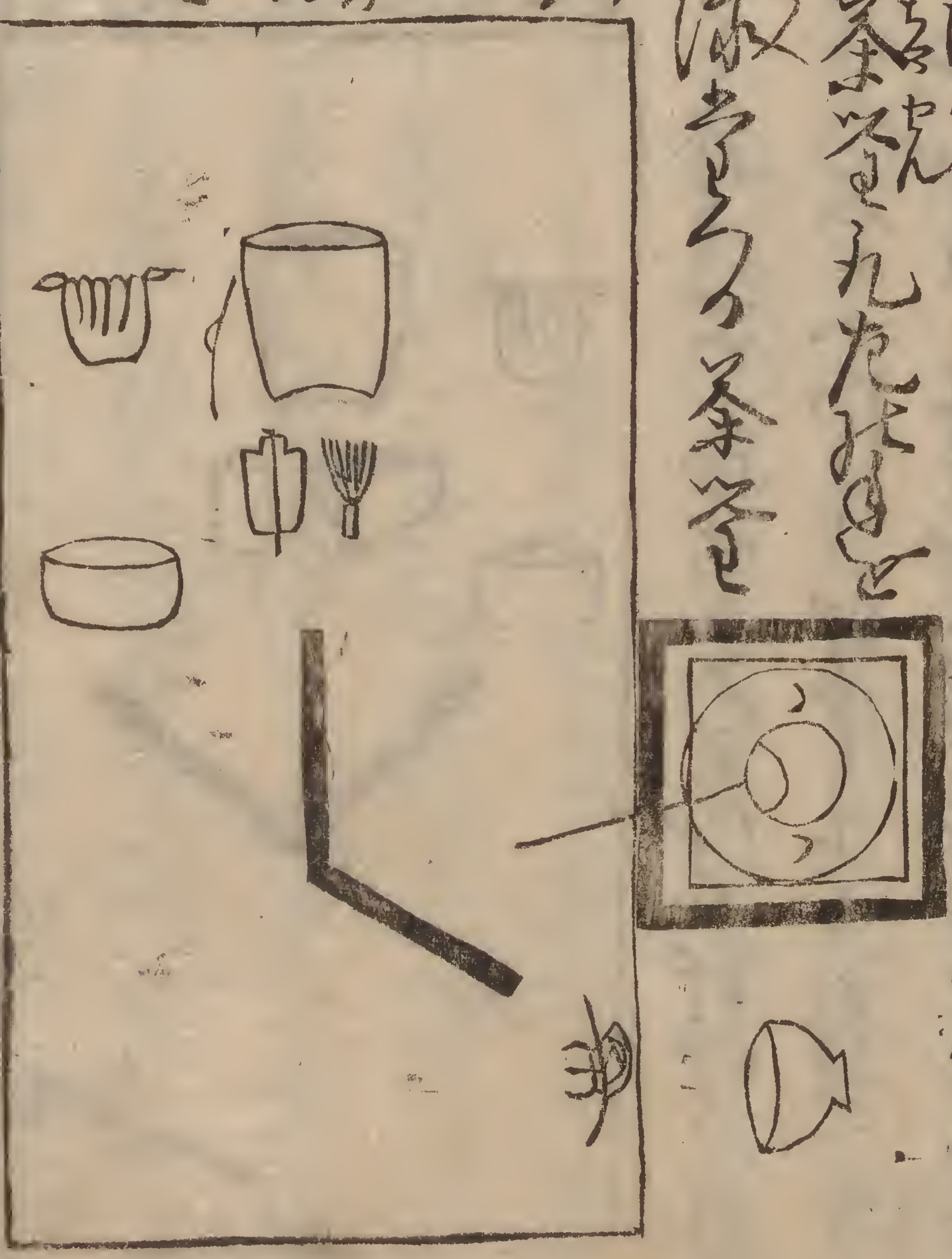
の上を二掛ひ又左へ移し右にて茶巾取水指の上に
置け又右にてひらき左の帛巾
にて釜の蓋をとり蓋置に
置け帛巾懐に
ちやせんを右にて
茶碗の向ふに置
引よせ柄杓の
下に置湯を二掬ひ
釜に入て左へひらき後し膝に置右にて帛巾をとり茶
の蓋をとり帛巾を膝におきちやせんをひらきて右にて蓋
釜に置け右の手にて茶筅の茶碗に入湯をそゝぎ引して

下に置水指の上なる茶巾を二折にたゝみ釜の口に置
又水指の上に置け右にて茶筅湯通
引て上茶筅の穂先を見
て下に置手にて
右茶巾取茶碗
に湯を左にし上
茶巾を右の膝
に置左にて湯
をすて中へ茶碗の湯口をとり内へ入茶巾の端をとれ茶
碗の縁へ置け三引廻し内をぬぐひ右にて下に置よ
手にて茶巾を二つにけ中に置引返し手にて水指

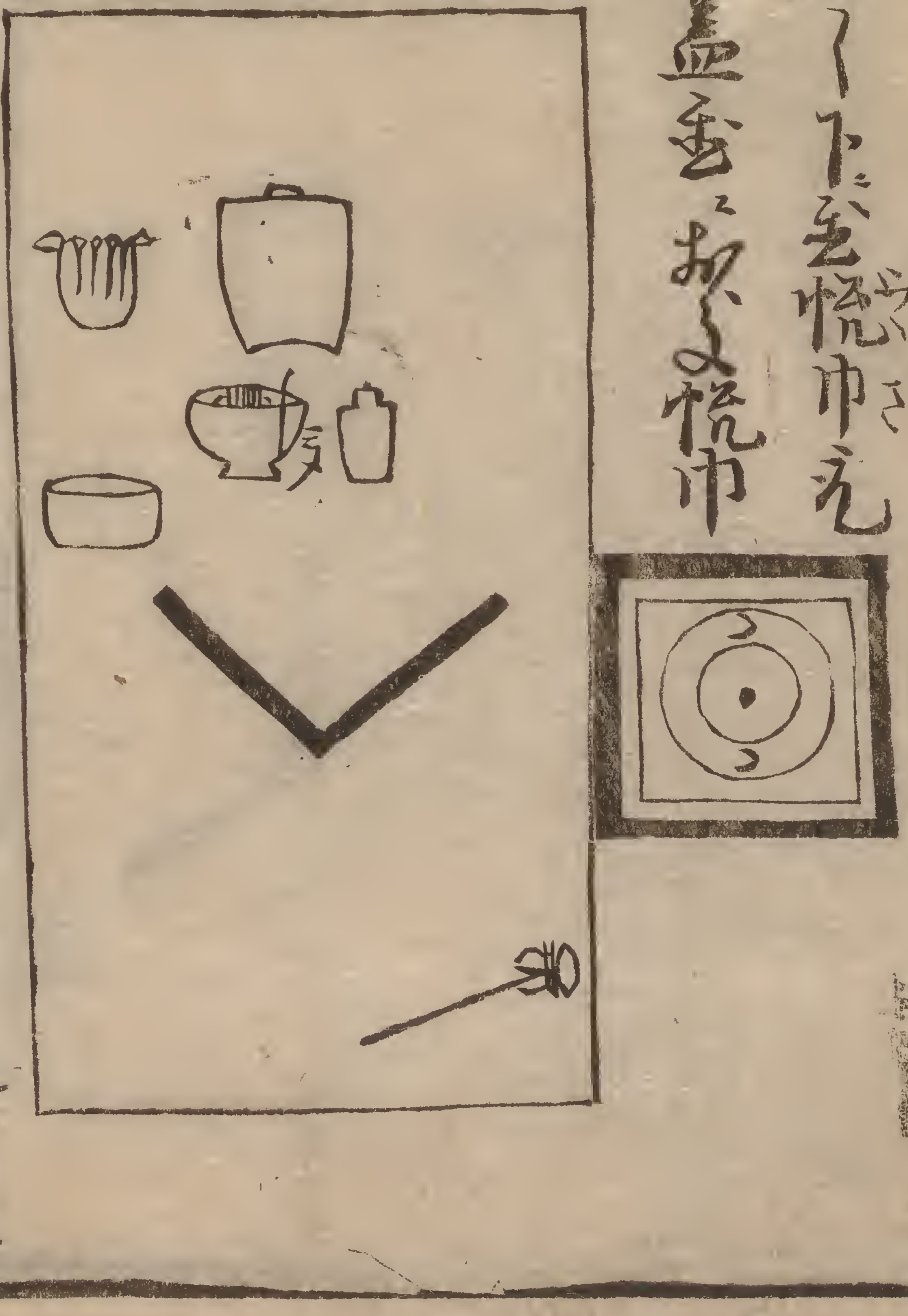
畳ニ向けおくし茶杓ハ先ニ而茶入ハ茶入ハ蓋炉縁
此角ニ置茶碗ハ畳ノ茶をとりて
入ル又ハ茶杓入口に紐あり又茶碗
ほとに入て茶杓
茶碗ハ縁ニ置
もちて茶入の
蓋して畳に置
包し右の茶杓
れたる茶碗此縁とかゝへ茶をとろけ茶碗此縁
し茶杓并ニもちて茶入にうけ手にもちて柄杓をとりたる
一揉し帛紗ハ釜此蓋ハ取て置手ニ帛紗巾



懐へ入もちてしひらきて湯をとりくみかけて柄杓を
よく茶巾にて茶筅をれたる茶碗をと
茶碗此縁より淑すとろ茶筅
取てあらい
うけ茶碗に置
扨右の帛紗懐
あとを拭き
取り置此次に置
同じく茶碗と置也扨茶碗をあらためて時分清又
少し置て右扨之柄杓とりて水たゝへ注し今此蓋
しめたる柄杓を此翻にて置太き蓋を水指此脇



手前居かゝりまはりて向ひ居る也其後帛紗取る處に
蓋置の右へ添て下に置帛紗の
茶入の口を拂ひ蓋置におきて又帛紗
膝にとらせ水指
の上にある茶巾の
釜の蓋の上に置
其後水指の
蓋の水盥の



上に立置て柄杓を子に持せ右の左にとりて右の一
添て水一杓汲みて釜へ入し取りて下におきて内に
茶碗取りて先よく拭て後きよく下に置て茶杓

其後又茶入の蓋を取て後湯杓の湯を入る柄杓の
まゝ取る左の茶碗の左へ添て湯すて右へ取る
下に置又湯を入て柄杓を水にて又は茶碗を
入其後釜に入てて下に置て又茶筅の茶碗
の入一つ取り廻し茶筅を茶碗の内へ指せかけ
なを茶におきて又茶碗の左へ添へ湯すて右に茶巾
の湯口を拭き茶巾の内へ入向ひて取りて主の
一目の居る所に置て其後茶入の右の手に添る
廻し極まりよく茶碗を入茶杓の帛紗の右に取
川の水盥の入れて茶をかき回し下より
又右の柄杓茶筅をよく拭ひ茶碗に付まして

茶入を元の所におき扨茶碗を前のごとくおき帛巾を腰に付
ちやきんにひしやくにて水を入釜の縁にかけ元の所へ
扨又順におさへし也右にて釜の蓋を取蓋置に置右
にて水指の蓋を身のきわに付て縁の下にて蓋をたてる
時上座の方へ茶入を出す也時に互に何もちやうどして先茶
の口の戸を開てひしやくにて蓋を取左にて水盛の縁
ちへはなちしほとくるて後扨茶入の上し帛巾を出
し四つにたゝみ先茶入の蓋を下に置口切りをぬき其
後右の膝の上にてふきさし胴を巾ひ蓋をせさして
帛巾を懐へ入帛の下にてほこりをはらひて時に互にして
茶碗の入る又かの水指を水盛のかうへに九ツ置

をせむる也扨懐より紙を出し水指の次の炉縁
蓋置の下水盛の下巾ひとつ内にたゝみ向へ向け八
方へ水さしをれ立扨何時も座に茶入をだし九時
お礼する也其茶の湯は時の首尾によりて
いろくの時ともかはるても次第の作意次第の口伝

三畳大目の事

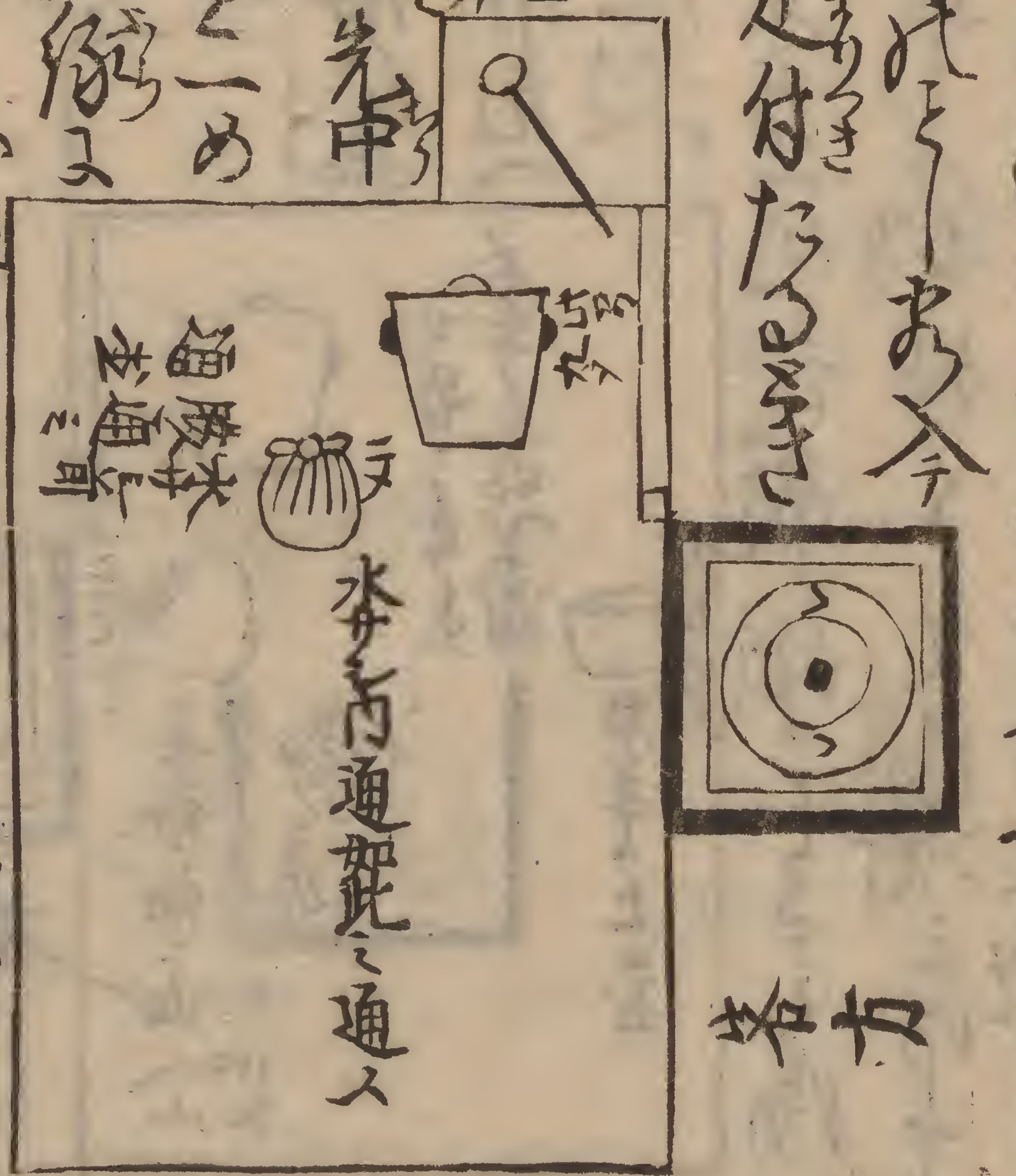
一 三畳大目は古織の作意也一畳半は何もまへる
せばくして客の入ても居所もせまき故に縦て一畳
半に又一畳を加へ二畳半にして客人七寸に勝手の畳を長
畳二寸ずつ短くを大目と云二畳の畳と其大目と合て
三畳大目と云故に一畳半は大目の内に炉を切一畳

のひより敷ニ備て
炉之中柱外（土スミ）
別古織ガ作之
此敷ニたゝみ広き
なり然し大目乃
多く炉先一尺五
寸ニ向ニ寸ノ時ハ
扣て置べて三畳大目と視るべき

口傳

三畳大目勝手冬の茶入

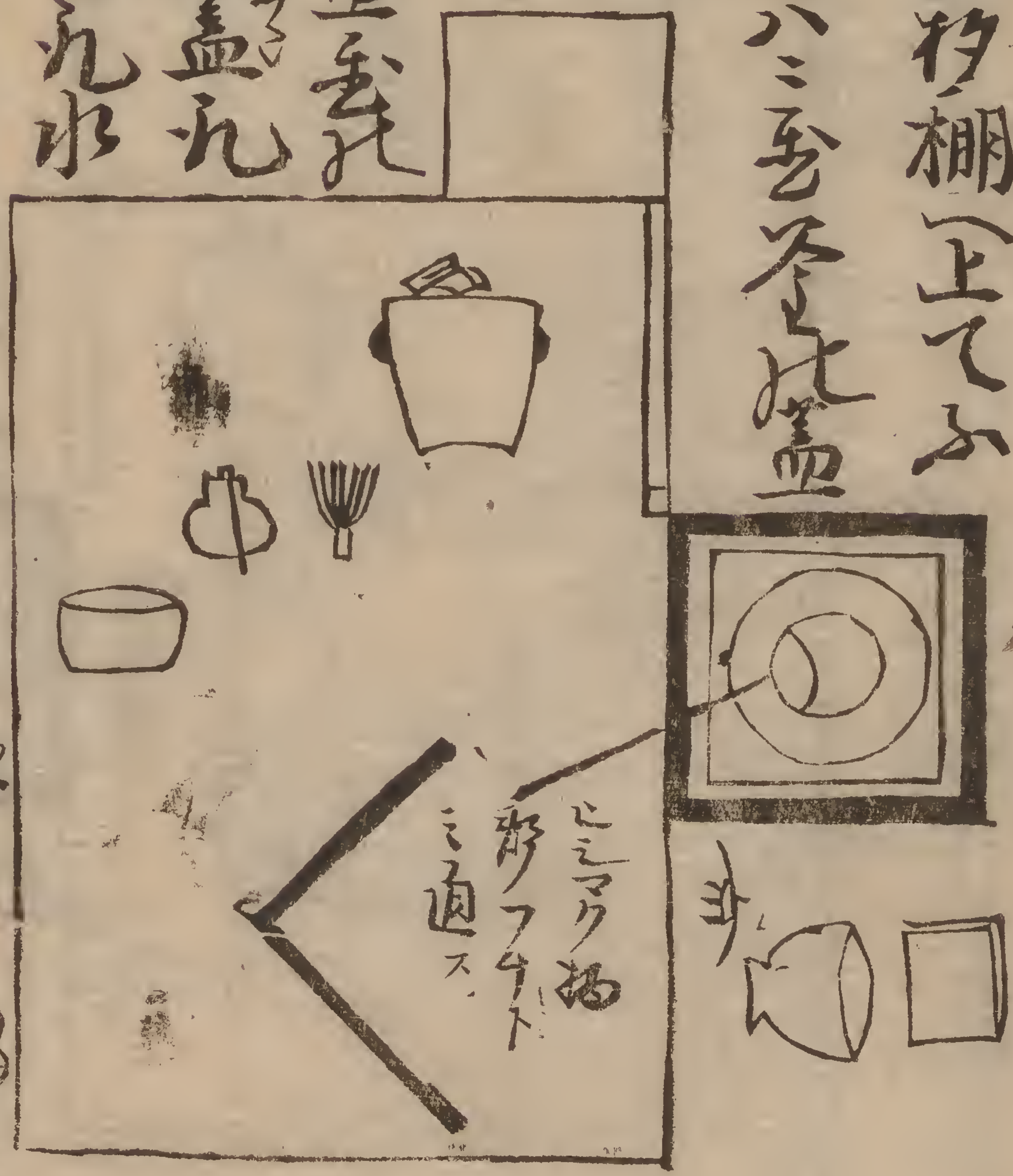
一 茶入乃荘ハくれぐれも入念
荘と見え座定付たるとき
乃主茶乃口
此戸を明茶碗
と左の手ニ持出先中
置して茶入と一め
のけ茶碗乃縁よ
りと添下ニ置扨居敷て水盃と乃入あと戸を閉て
いずれも蓋を置きれ土し置ひつくとおろし蓋（建水）
視茶碗乃土し 茶入乃土し下ニ置 茶入（袋）乃ぬぐ跡



只仕覆中指りて右服巾さばきして茶入れ上巾ハ
肩れ下ニ置服巾ましてて茶杓
れ巾ひ茶入ニ付茶筅れ
肩れ下ニおき
服巾にて水指
れ蓋れ上を巾ひ茶
巾れ掛て服巾丸へ
れ持ひてくれ釜
ぬくさきさ釜れ蓋れ置れ釜れ縁ニさき湯をこゝ入
二柄杓入て蓋しめおきくして湯次ニ汲て下ニ置
茶巾れ去ばき茶れさかなはたニ置茶筅こゝし二

川して上ほとこなんて釜ニ茶巾れ茶碗ニ
おて湯を捨円と服て円へ
入去ちおき釜ニ置茶杓れ
茶入れ茶入蓋
炉縁ニ置一茶碗
こ入時迄とこ茶入
れ蓋しめ釜ニ置
茶杓れ茶ひろげ
中ぐしれ去し茶入ニ為ひろくとれ帛ぐし釜れ蓋れ
蓋置ニ服巾懐ニ入ひてくれ湯をこ給ぐニ茶
碗ニ入柄杓釜ニ為茶筅れぬるを中ニ引上年寄居

さて懐ゟ帛巾を出し叶ざあるを居直り柄杓をとる
釜の蓋して柄杓棚へ上てふ
た釜中柄杓ぬき八ニ至茶の盞
の始ニ至ニ為
帛巾緒ニ至き
ニ茶巾及茶盞至の
上ニ至水指の蓋の
之へ指せひらくの水



柄杓ニ入釜ニ為て至也茶碗ゆかと常のく
の淋汐一柄杓を入茶碗の汐捨帛巾ニ[illegible]如く
茶碗ニ〆[illegible]

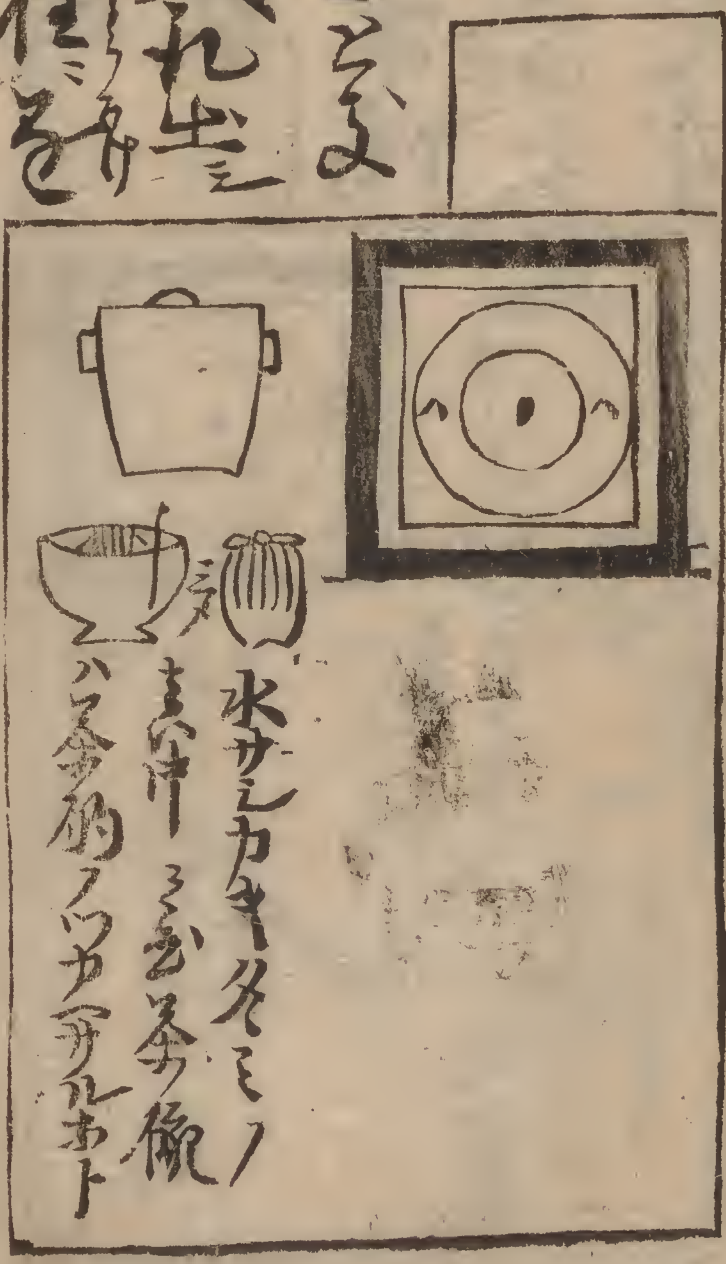
第の板[illegible]ニ控[illegible]行口傳

一庵ノ半の庭茶の畾

一庵ノ半八千宗旦[illegible]居士の庭[illegible]ニ庵
茶[illegible]太月八ニ尺[illegible]
[illegible]

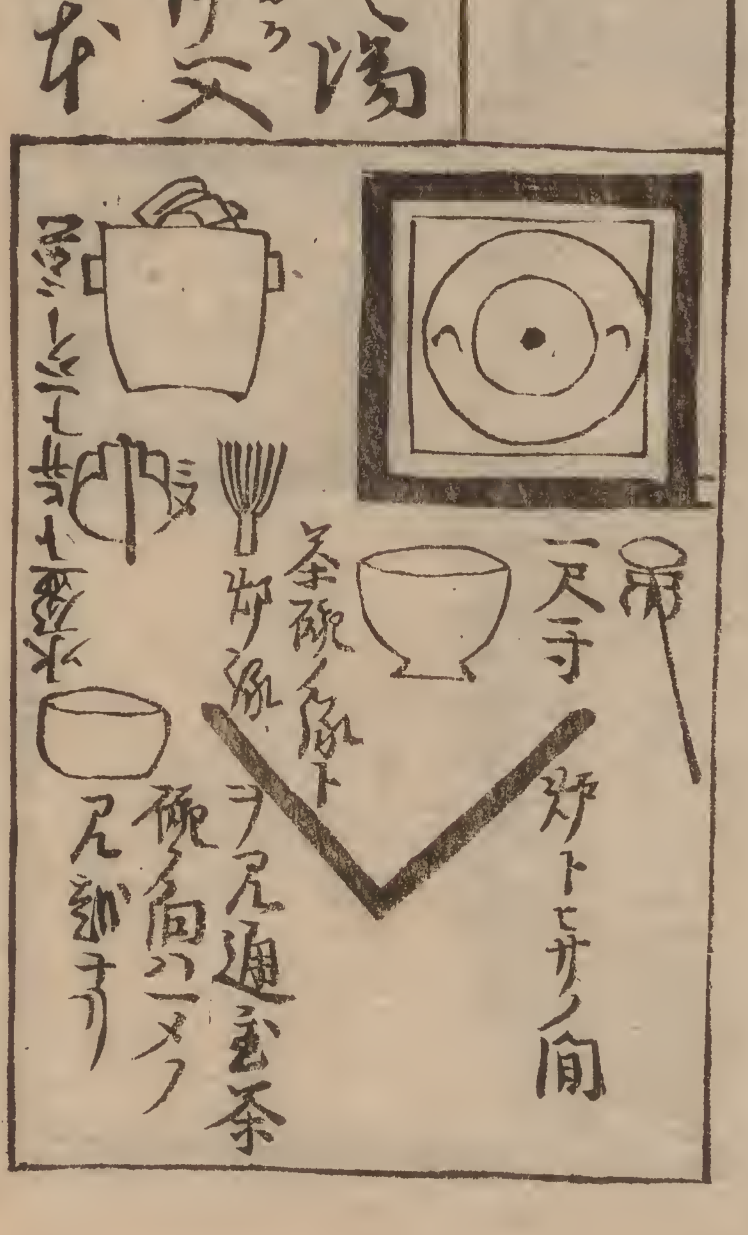
引竹と二尺八寸上ニ引ハ菓子入たけと書寸
菓子盆炉の上引竹ハ上段ニ下棚とほそ六寸上
引を茶碗をはる也又も菓子入ハ天井ハ板を
建水置して其下ハ又菓子を出して炉
よ所の也かまを下に日本也

一 のまま炉をよ出炉まま
一 水盃小柄杓竹輪入持出置ハ不二置ハ蓋置ハ
出し置れ候て置柄杓ふた居し候て次ハ又茶碗
九出し置れ不二
置茶入九出し
を茶筅をとる又
持へ所茶入九出ニ
下ニ置茶入井ニ置を

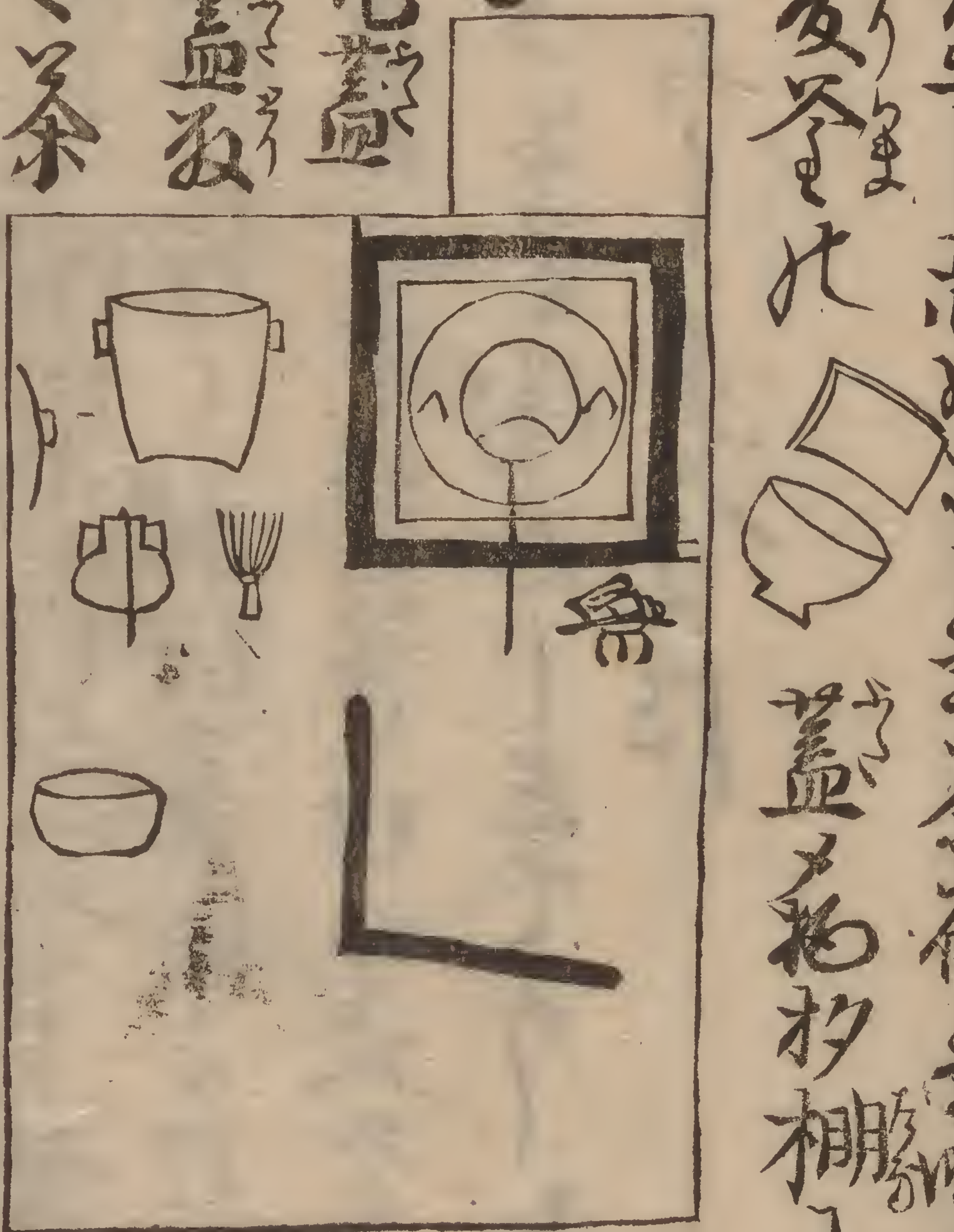


帛紗帛紗取出して茶入れ手拭ハ置乃下ニ置帛紗
二ツニ折て帛紗ハ茶入ニ置茶を入れ不入又
帛紗にし水指ハ蓋帛紗ハ又茶巾上帛紗 右よ置也

よきころひらく其釜の蓋の帛巾脇にさしおき湯に柄杓
をさし入釜の蓋を取て柄杓蓋置に置茶筅を其湯次三
ツして茶巾をたゝみ帛巾を手のきにおき又湯次に入て
其上にたゝみ置て
て押付に置茶
巾の茶碗に入て湯
すて内をぬぐひ中へ
下に置其上に置てな
ざに置茶杓の茶入の中の炉縁に置一茶杓入時
ぎを勝ほどに入て蓋しめ左に置一茶杓を右に
杓の帛巾をして釜の蓋の帛巾懐に入やがて右に柄杓

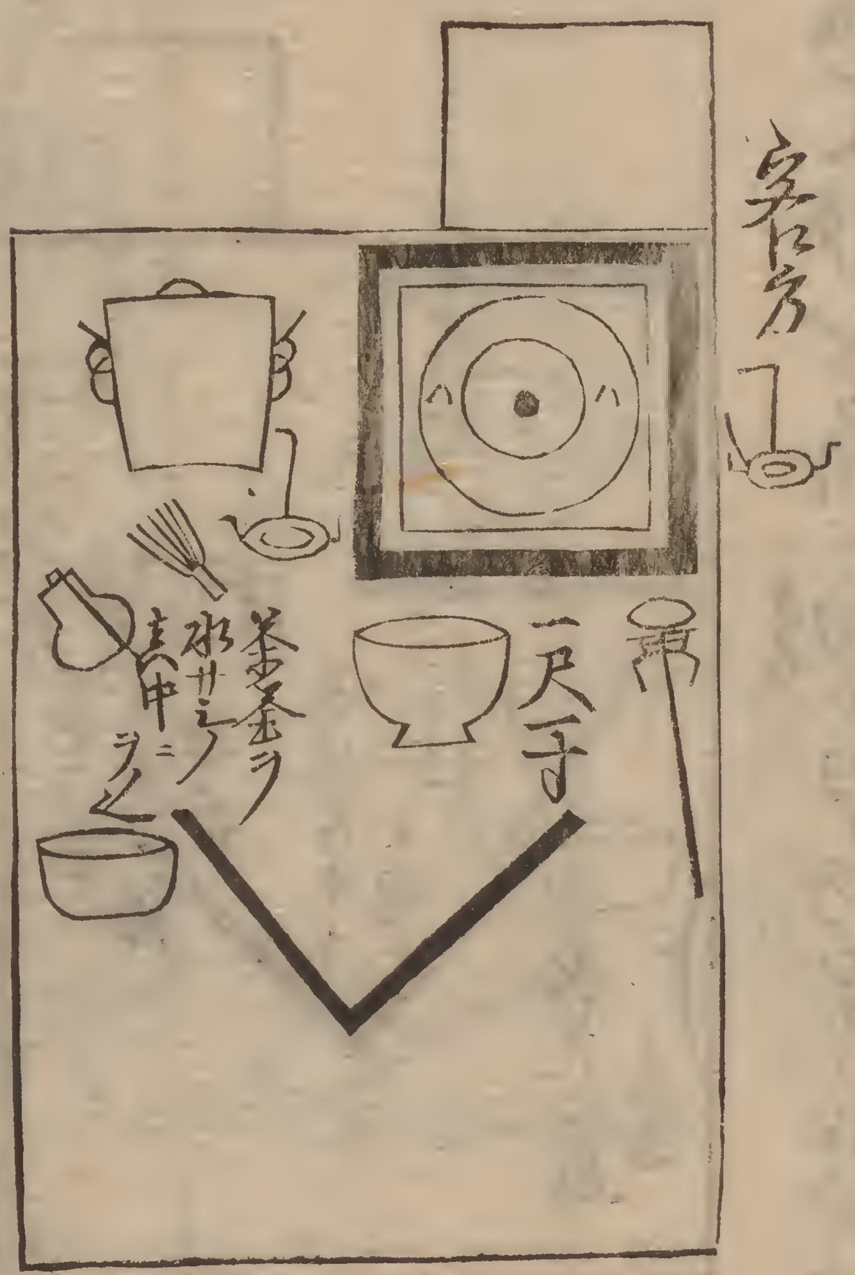


入る勝ほどに入て釜にかけ茶筅の振中にして湯
杓をかゝへ帛巾の塵しかけ蓋置に茶碗を時宜すこ
杓をかゝへ柄杓を反釜の
蓋置によく
杓をかゝへて置
帛巾の脇に置て其蓋
置下し釜の蓋置
帛巾にさし茶
巾の蓋に茶杓の帛巾の柄杓にかけ
其水釜に入て置て扨世茶碗かけ
いきときに下に置ひらき湯を入柄杓釜に置



若茶碗ノあつ湯とすて巾を拭ひ下ニ置又
一柄杓ニて入て柄杓にて水汲すて茶入合せて釜ニ
冬茶釜の湯を一ツ汲て御置上して上に座ニ
又湯すて茶巾の湯口巾ひ内へ入下ニ置茶釜
の入茶碗の膝の出し巾ひ茶碗にうけ茶入の
出し荘に跡先ニ茶碗水を入茶も大蓋
しめ柄杓を出す又湯也しまてよし御たる
うき時ハ湯么し不入口伝

一 退且半本勝手次第也
一 東ニ茶釜縁ニ置茶釜ハ水サシ建水を入違
一 置文も同じ



一 置く半本湯を越たる物ハ同じ事但し茶入茶
釜置合かくれ候ハし外ハ右て候あるニ付し
炭次第たる物あるニ習ハ口伝

一 長半角炉ニ棗手前

本勝手

客前

一 此手前ハ前ニ記て炉を角ニ切事ゆゑ外時ハ手前
前ハ手前ニ違ふ事多し棗其外何も次第ハ
以前のことく其外のことくに心得へし委く書ス

以前のことく右の手にて棗をとり進言着

一 右の手にて茶せんを取り棗のことく如し水指持出

置物杉蓋置

茶碗いずれにして

時する茶碗

持出し扇此下

ニ置棗持出し

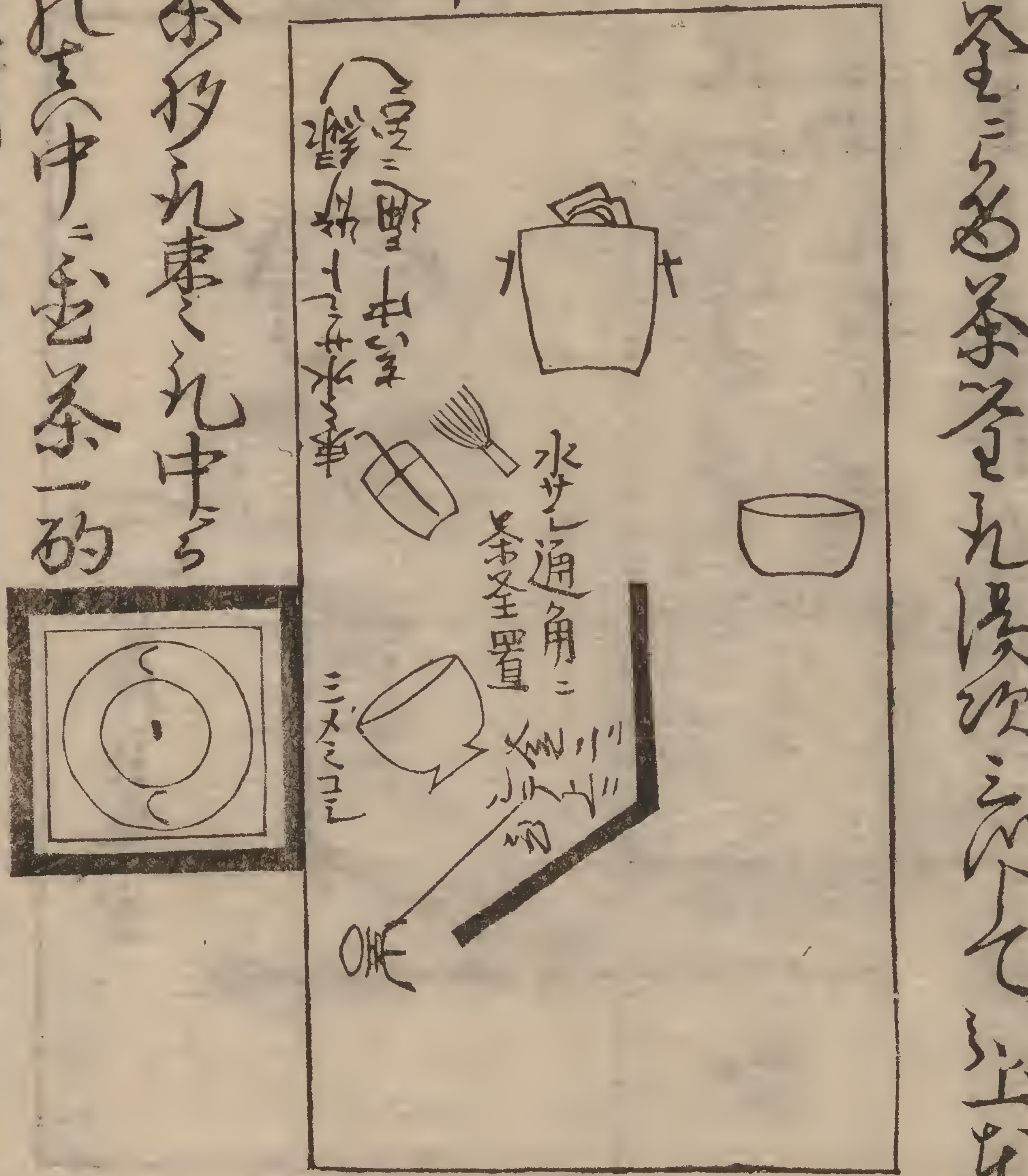
左の中の指左此親指のはさ

ぎハ押へ右の解持出し帛

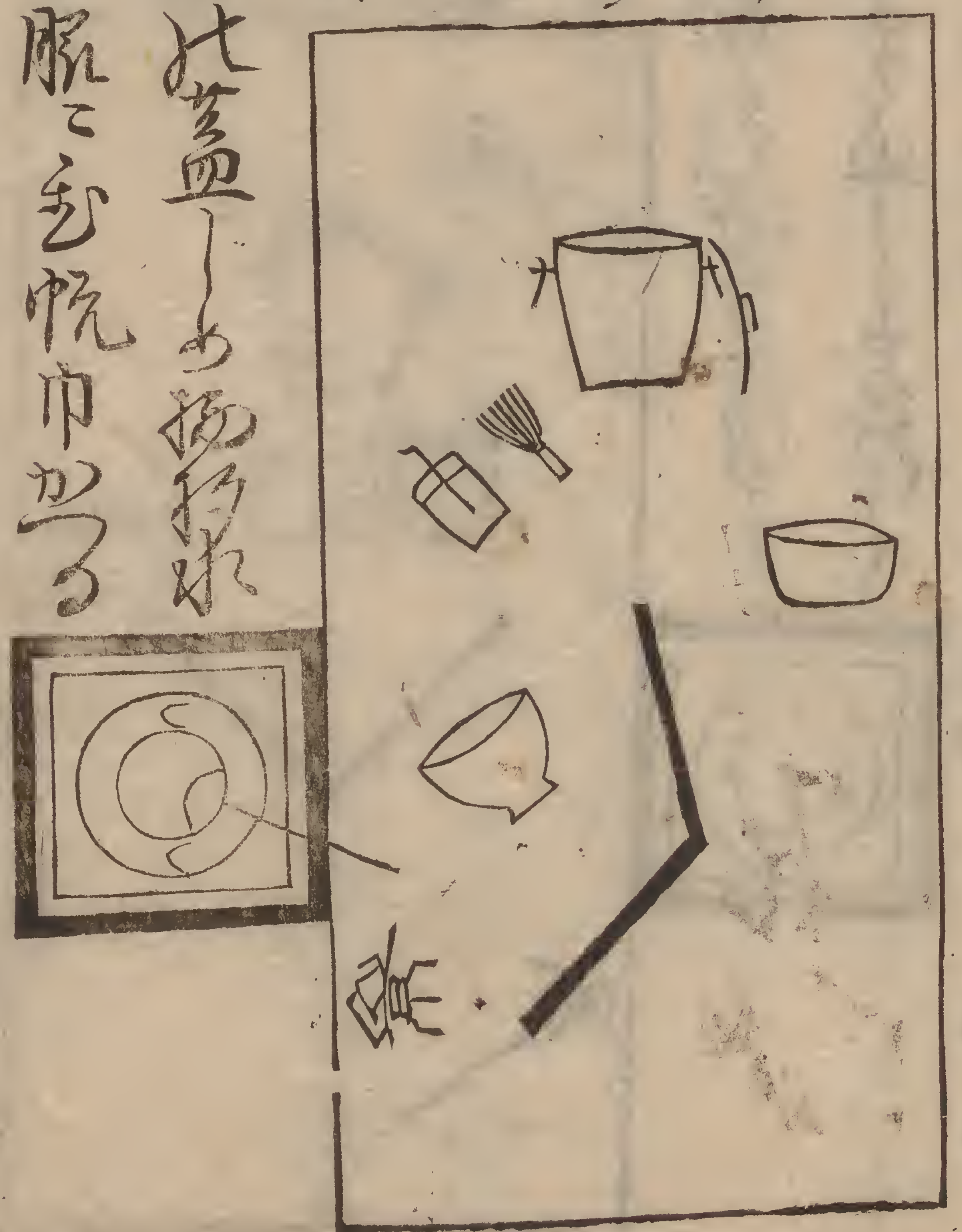
の巾ひ扇此下へ置し茶杓持巾ひの茶碗持出し

扇此下ニ扨又柄杓を取帛ニ茶碗蓋を取帛巾

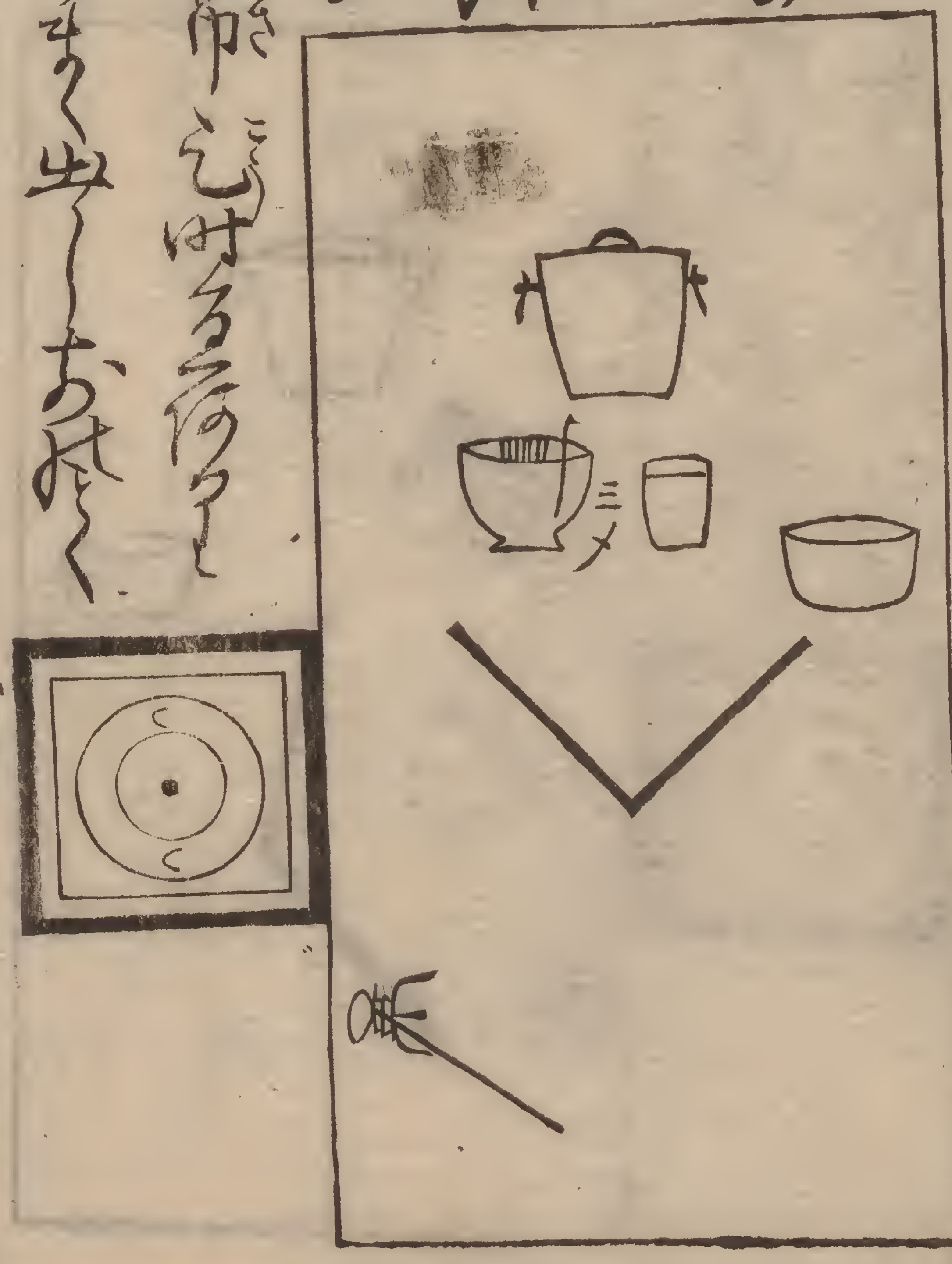
膝ニおきて茶巾を茶盞の上ニ置て茶碗ニ湯
一杓入ひたて釜の蓋茶筅を湯通ニ而て建水ニ
置茶巾の
ぼりを取惣
茶碗ニ而て湯
を捨拭ひ茶巾
を上ニ置惣茶
の蓋を上ニ置茶杓を建中ニ
刻蓋ニ而身を中ニ置茶一杓
汲入常のことく振杓して茶筅ニ入茶ひろげ茶杓打
其後蓋を取蓋しめて右の方ニ置し茶杓茶入



蓋の如く前ニ掛せ口ニ添柄杓の中ほどを以て水を釜へ一杓
入ひたして湯をあげ茶碗ニ入ひたして釜ニ戻し茶盞
の蓋を取て
左の方ニ置き
茶巾を帛紗ニ
の上ニ置し
茶碗を出し作
あひて茶盞の蓋しめ柄杓水
盛ニ置蓋を取て茶巾かゝる
と茶盞の蓋置の右ニ置茶盞帛紗巾の帛
膝ニおきてひたて水を入柄杓を釜ニかけ茶碗を向ふへ



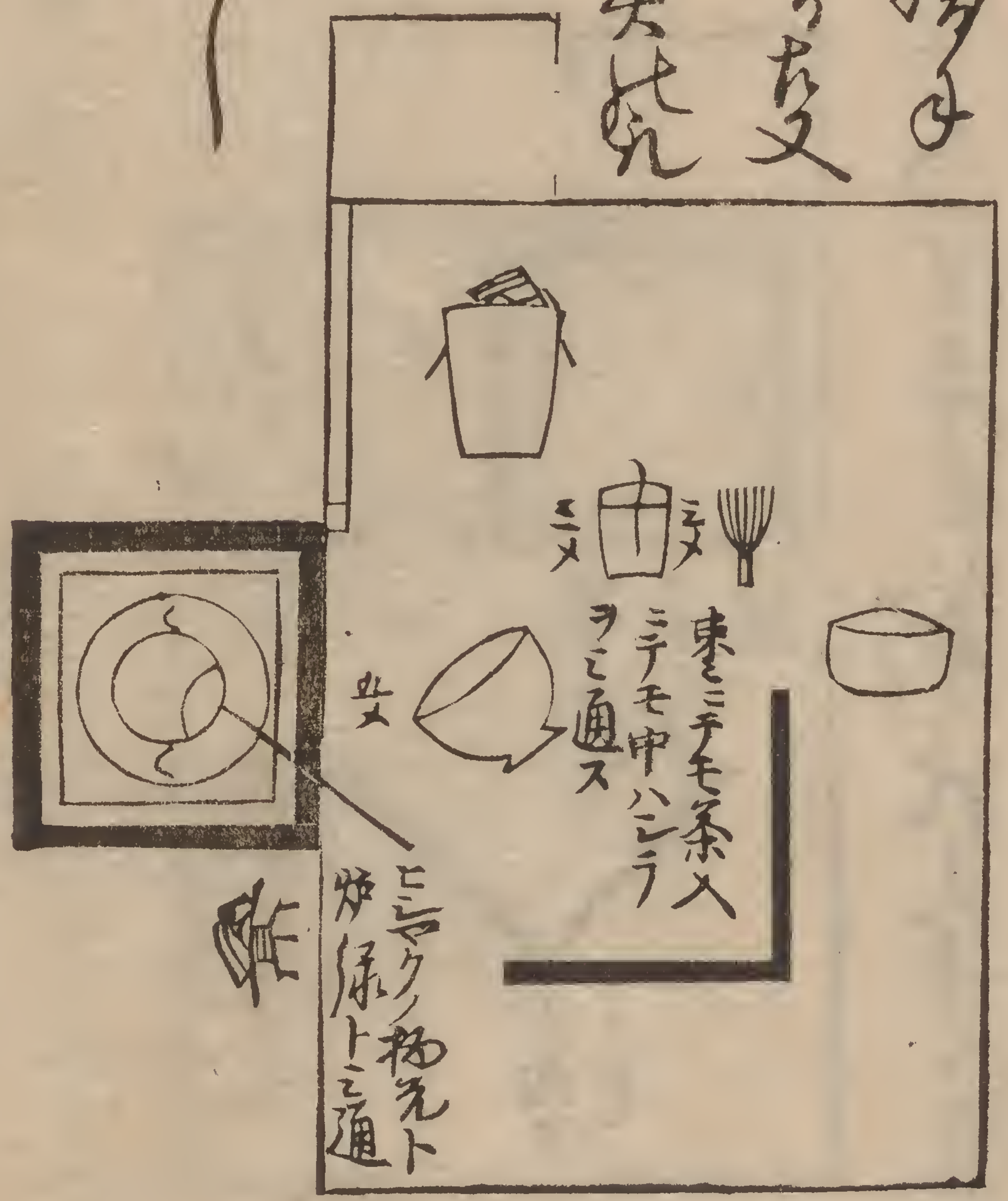
とりくとをんに茶丈をきて下ニ置礼湯いつもよりおほく
洛茶杓をく時客よりも茶杓をとる時は常のごとく
うしろにむきて
よくふき茶筋
此くひを我方へ
して何時もくい
先を我右へなし
して出ス客帛紗にけるに何かと
客ゟ乞時ニもまく出しおはく
洛て飯りかへて扇此如くに本此外なして釜台を渡
脇ニ洛て茶筋礼よりか悦巾し迎かて飯りをもまく礼



入子時おも礼より
一 数寄屋へ入點前の時ハうらに茶之茶碗を湯次まへニ
茶巾茶せん茶入を何事もうらに茶杓ニ時すうくすおゐく
おして其心ハ何時もおもて何ともに文をなし
茶入此時ハ茶筋此茶杓を先を扱そ此方へすり
一 おして右ハ扱ハ道具扱を逆にすへし扱杓此
九まうしうるく逆ニ仕てうるかし茶杓を逆に扱う
かうし

三冬〻大衣掛ゟゟお
一小ル水指と云ハ胴ル細き水指ル事之三冬〻大ハ茶入
茶釜脇ニ置申へニ
依て大小ル水指ル
置所ニ廣せバ置所
其右ル掛ゟ所ニ此
心と云ハ其おトと同
ハ中柱ト向ル之どル其中ニ
置く之也して水指ハ上でしも
下くしも有ゟ不と曲人ニ之有了

三冬〻大衣掛ゟ莊り置ル〻し衣掛ゟニ點様ハ置
振ゟ無數ル作碗も置之事と同事之茶入くしハ
置き其ル衣掛ゟ
進言答ニ置ゟ事
却しも道具ル
あらひニ置く
遅らる可外
可と拙事なかるし

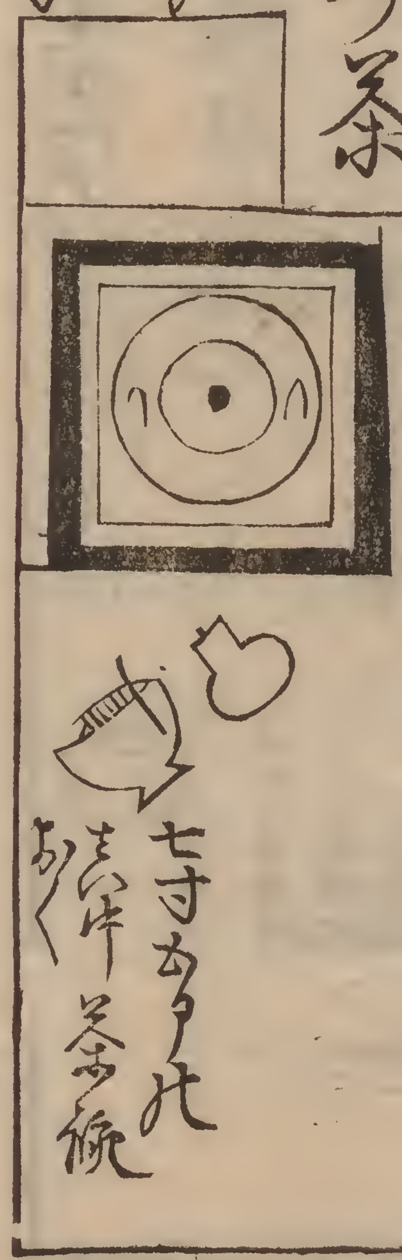


一 炉ニ末大棚ニ出炉ニテ於此事

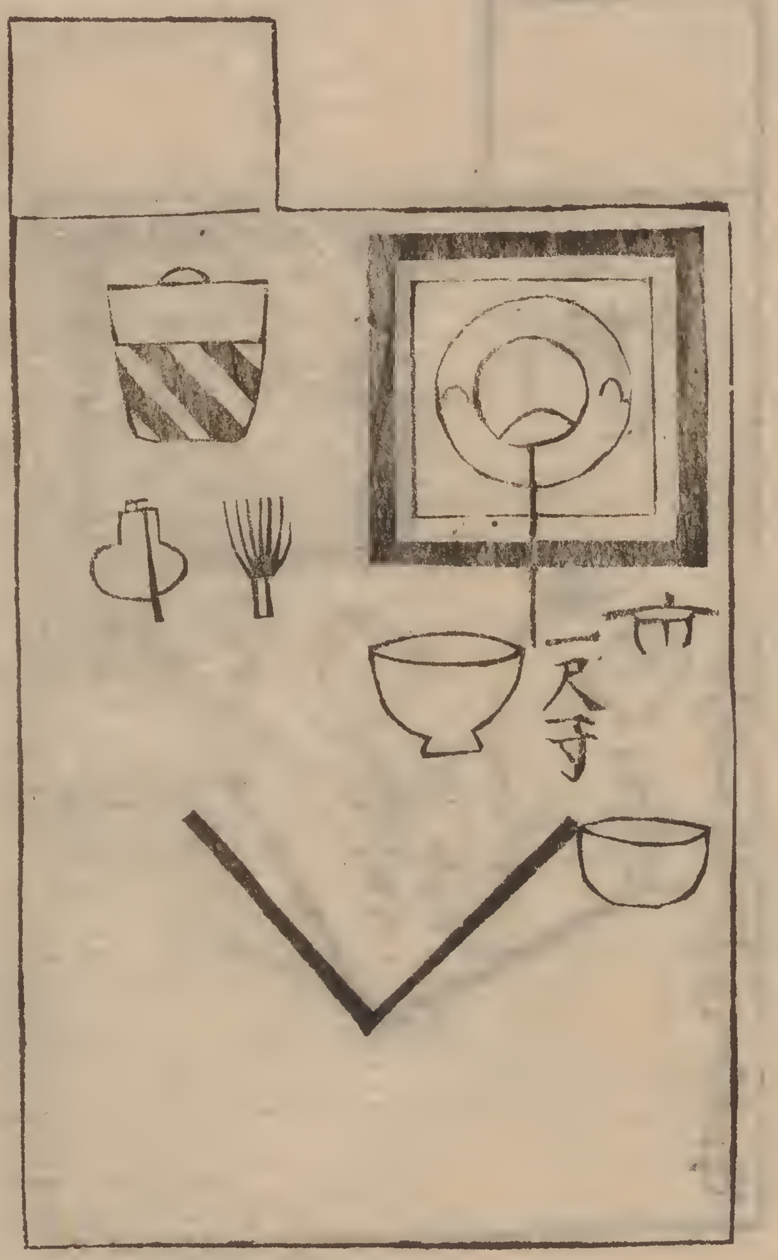
一
居住居ハ向ハ一尺一寸ニ為ハ炉ニ此大中ニ居能之ニ
分膝も右縁ニ付之れ盌ハ膝一ハイニ居蓋置炉縁
此方ハ釜も此ぶりく大小ニ随ひ了し見合引寄みるし

一
一炉ニ末大棚手おみ炉ニテおみ荘飾此ても不棚ニ
から台文台し道具扱ハよくく遊也

茶的茶碗ニうけ茶入茶筅のけへ遣し茶入のあと
へハ茶碗を遣しひやくれ之釜へ水をさし湯をわ
して茶のたてしむ
蓋置ニひやく建水
指の蓋する事茶
入を出し常の
ごとく後勝手
へ九入形事也



一 畳半右勝手角炉点の手前也



一 此手前角炉かくれとし茶杓の縁横ハかくれのあ
此方へ向様ニおく一 水盃ハ勝手にたし建水
指の蓋を右く置き方ハ口伝

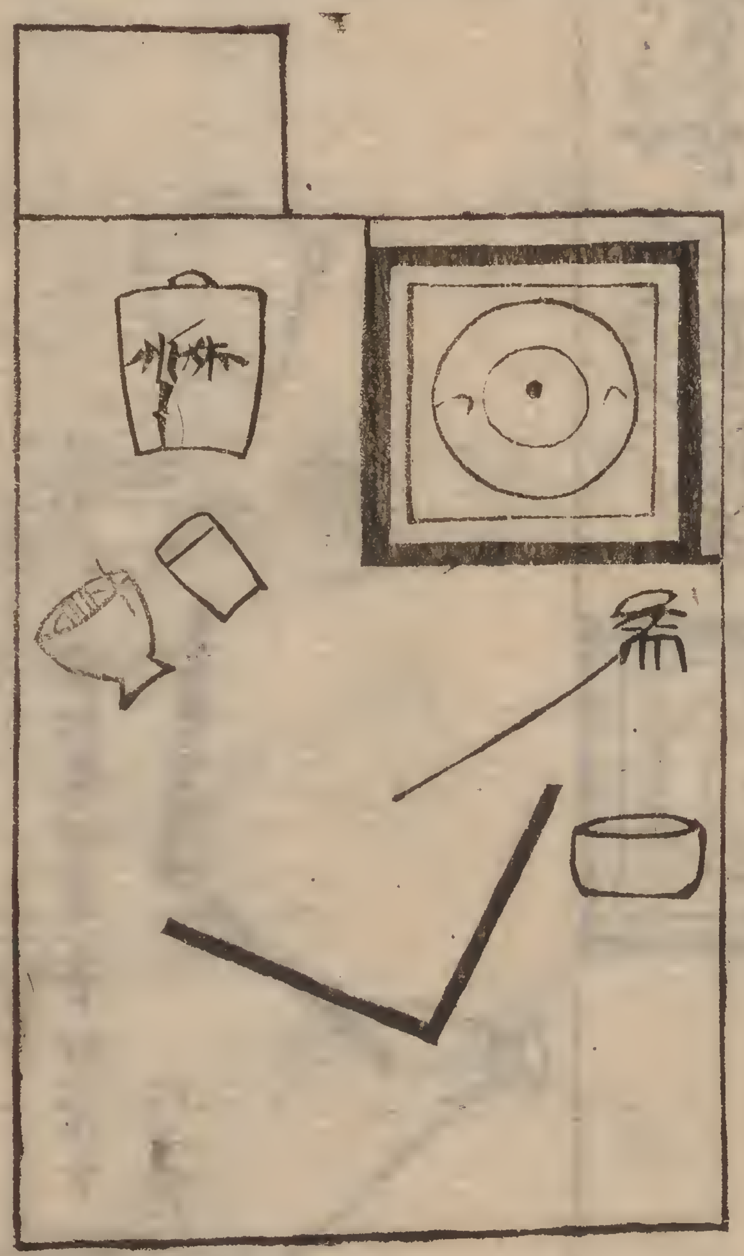
一 夏之末右勝手角炉點しやう

一 此くまの八右勝手付ニ向ふまへより出炉くしも角炉ハ一寸
向ふまへ此くまを置ハ炉のうへ通膝ヨリ曲尺一尺八寸ト

客方

合すりせ右の膝八寸と定来る此時ハ夏之此月比めの下に
くみ又茶入此時ハ釼の下にて釜を来る此時ハ茶巾を釜ニハ茶
釜の蓋中へ揃へ此手の指ニ挟み此くまの此秘事也

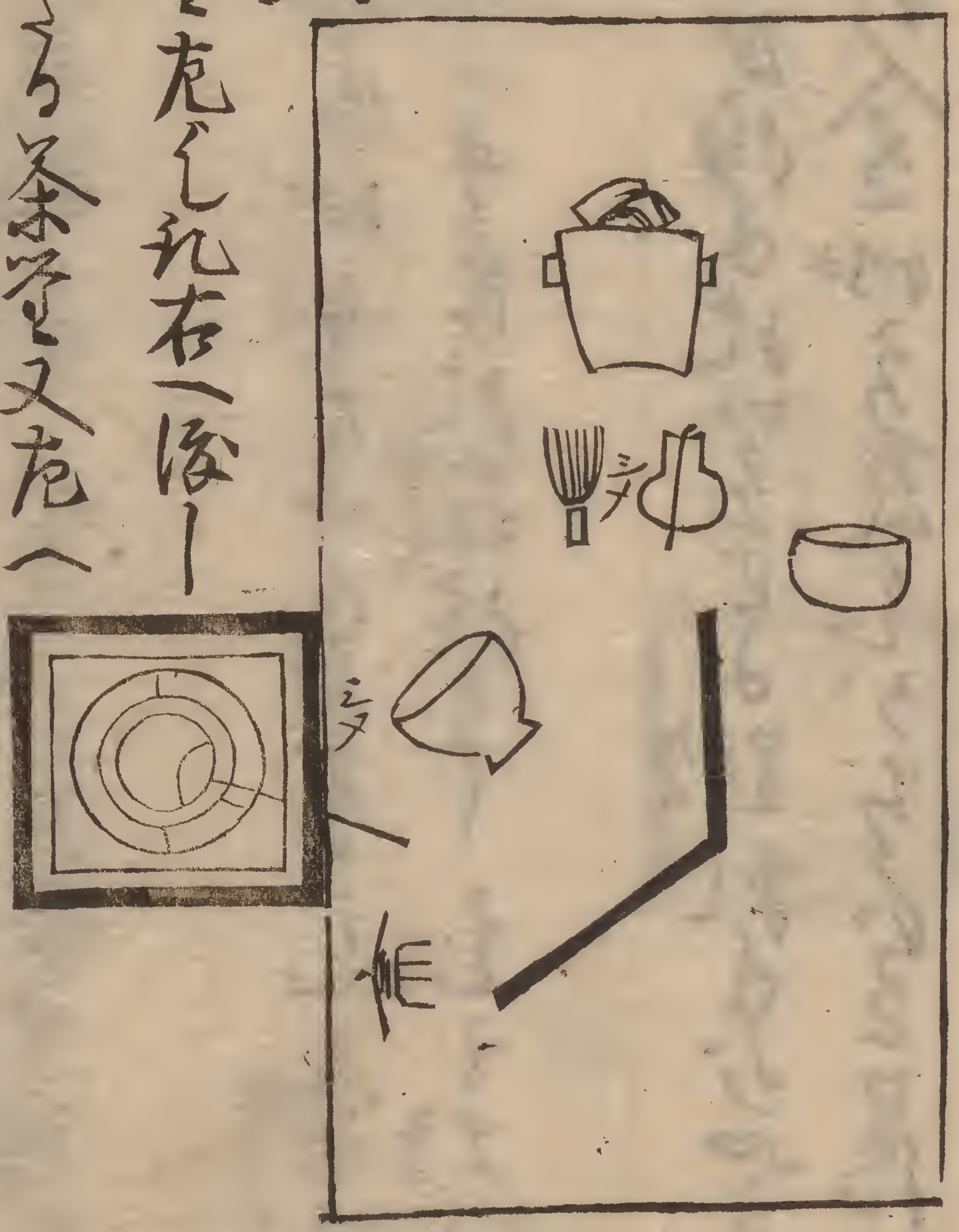
一 濃茶此時ハ茶碗を来る此炉へ建し茶筌を手前に来る
と出し又水指を前へ置き又も同じ置き此の通り也



臺天目太猪子ある飾　臺子飾

一右會釈ハ古ハ太猪子と二行あり又てまへ世子細ハ太猪子ハ
おなし文遅れぬ
扱ひ敬ふ人
親方ニ公界成
然れ共太猪子ハ
座敷ニ入つ
是非共附ニ右臺子を点ずる
世故ニ濃茶計也其上ハ
手おく荘り置べく茶入其外方茶碗猪子共に [illegible]
おなしおなし同し [illegible] 其茶

碗を出し 其茶入の袋を払ひ 帛紗ぬき 帛紗にて右のごとく
とりおき置おく 其茶入 帛紗ニ [illegible]
茶碗を右へ居し
置おく 其茶
巾水指の蓋へ
上ひとつの釜
の蓋の湯二つ入
蓋しめ茶碗右ニし右へ居し
湯次する [illegible] 茶碗又右へ
居し [illegible]
茶の [illegible] 茶入 [illegible]



外八部ニ明らか事なし

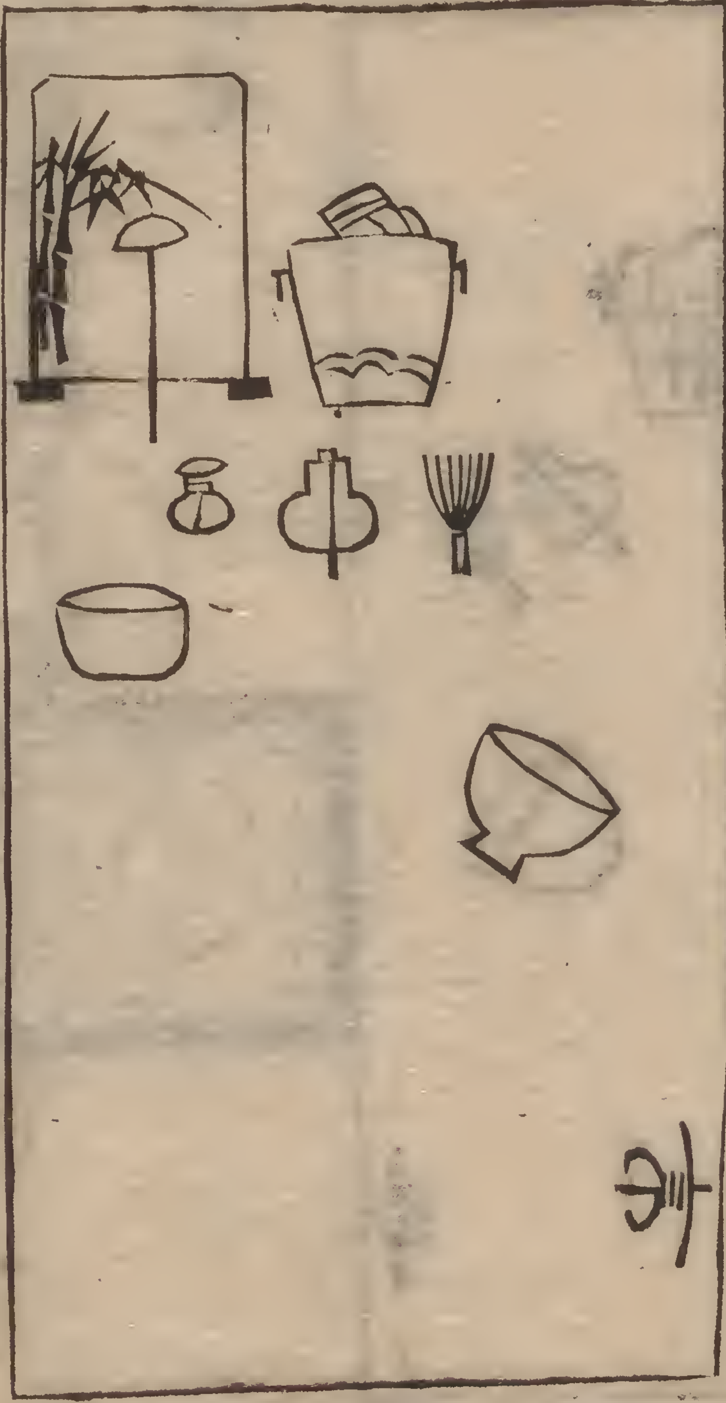
一 三ツ点之大台子ニて茶入を盆ニのせて点様見合する也但是茶八部ニ有し茶入茶碗ハ心ニ可斗之

一 四ツ半大台子之角を出ろ此通之重ね合ハ一盆ニて此荘也可斗之

右之台子ニて此所を[illegible]

一 四ツ置手大見扇點ル事

一 其手ハ大板ニ大ぶ扇立ひらく扇子をひらくへ扇子を大ぶ扇ニ
置ことを付 立盆にて扇抄



柄杓の脇ニ蓋置を置也
其手ハ…月点之事
時…扇ニ…

しまれ御湯をくみ入る手水かゝる事節し

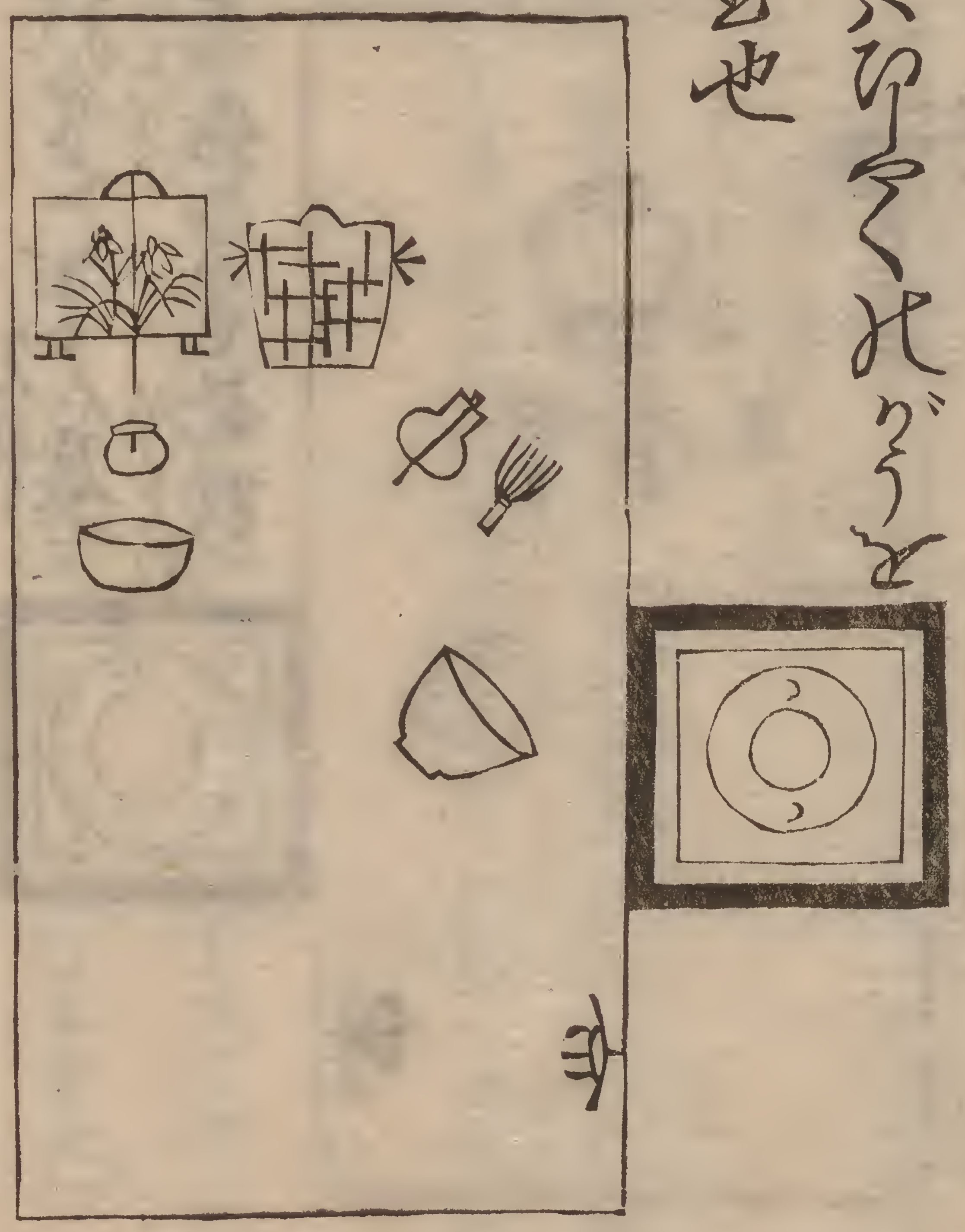
一 小風炉荘り之事ハ本式ハ點茶棚にかゝる事節し

柄杓をかざるハ却てれいがうを

うつむけて置せ

一 惣じて小風炉ハ七寸の事と云大風炉ハ壱尺八寸

二三寸と云右掛子を大小風炉とも此荘ハ四季ともにかざるべし



四季共小風炉かざる事

一 此ときハ茶入并を置又茶碗

并を何も毎色ともに荘事

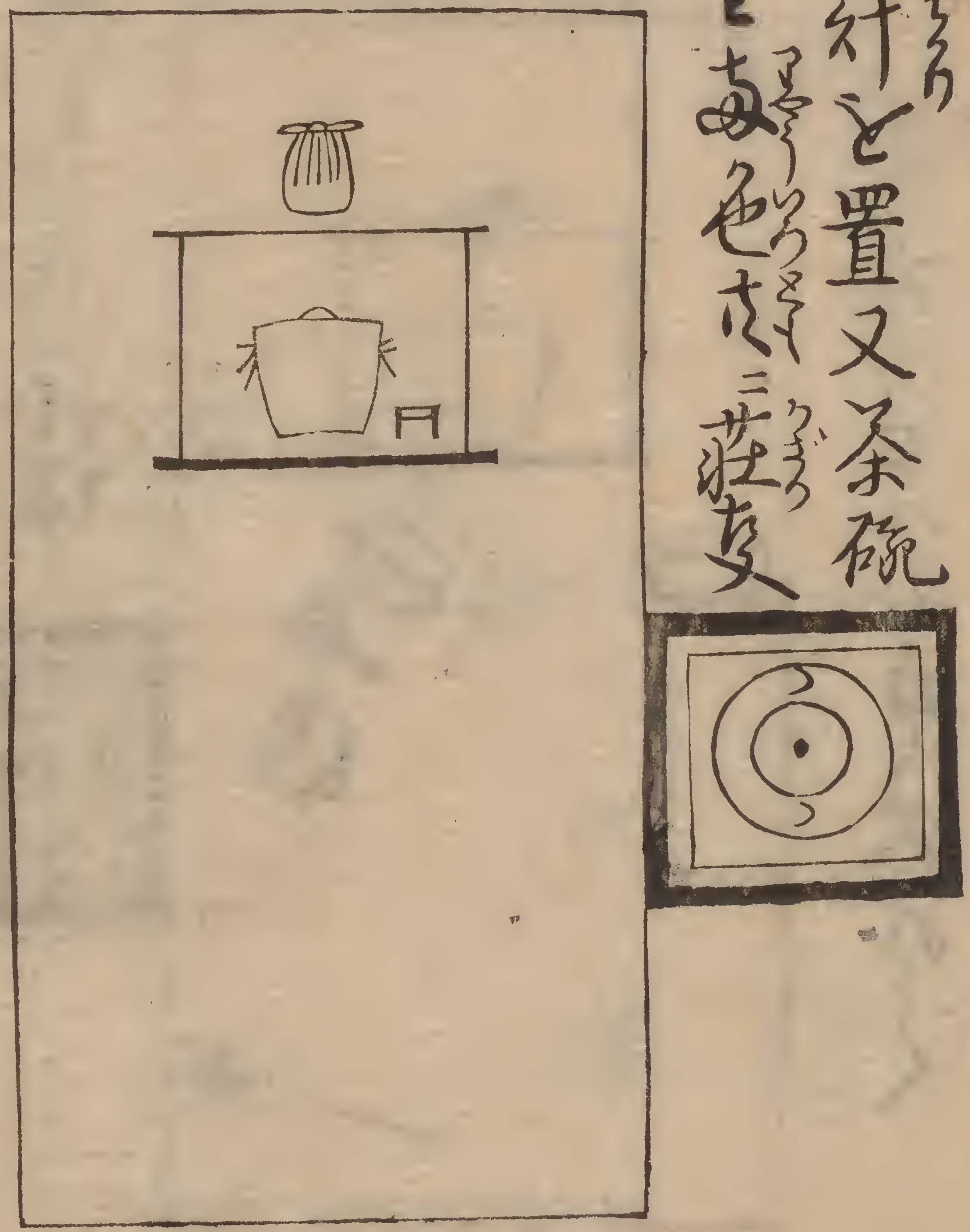
と何も茶巾を

よろし先

けまかせ時ハ

茶碗持出太に

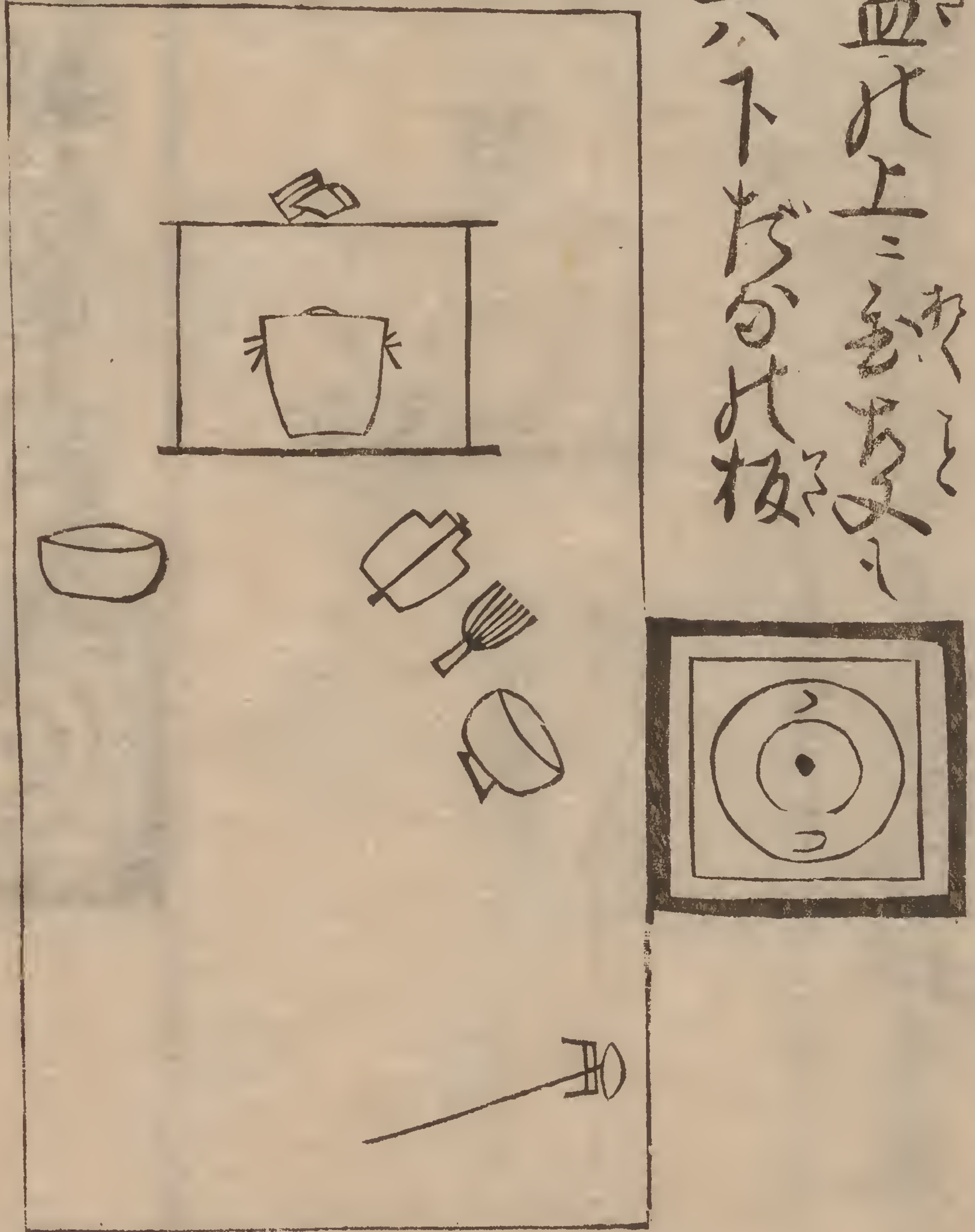
茶入れてかざり



茶碗のごとく置水盃とひしゃく等持出ハ何もいずる

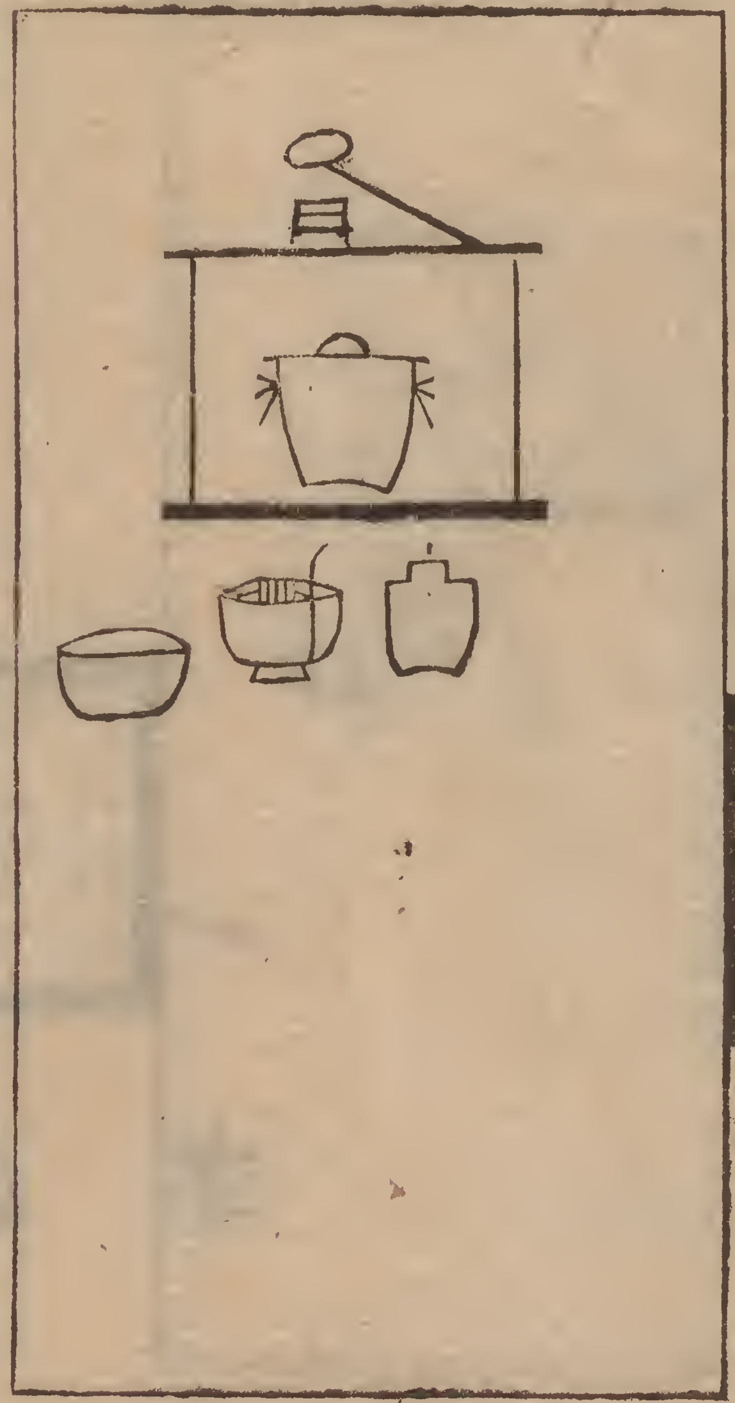
三かくん出し荘式荘ハ其時のまゝ又茶巾にすり時ハ

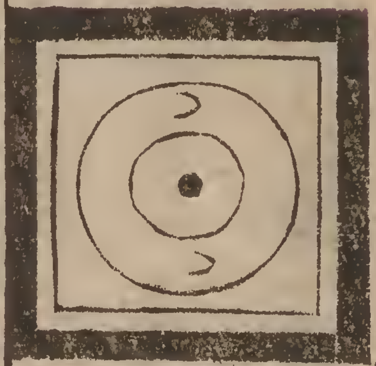
水こぼしハおくニ置也茶巾ハ上どろたなの上ニ置
又ハ水覆乃蓋ハ上ニ置事も有
いづれも茶入蓋ハ下だなの板
の上ニ置べし
水指ハ前の方
水指の蓋中棚
に水指ハ乃も
ざけ置事も
いづれ又水指ハ蓋大なるハミちにも大ハよく



茶入ハ下ニ置事も有いづれ又水指蓋ハ勝手の
方棚のハの方ニ掛せ置事も
いづれも
一 小板三色ニ
の棚三本
柱ニ下板ニ押
廻し
竹の棚也
一 下たなにて中ニたなにて上ニ釣たなの
付るたなも有

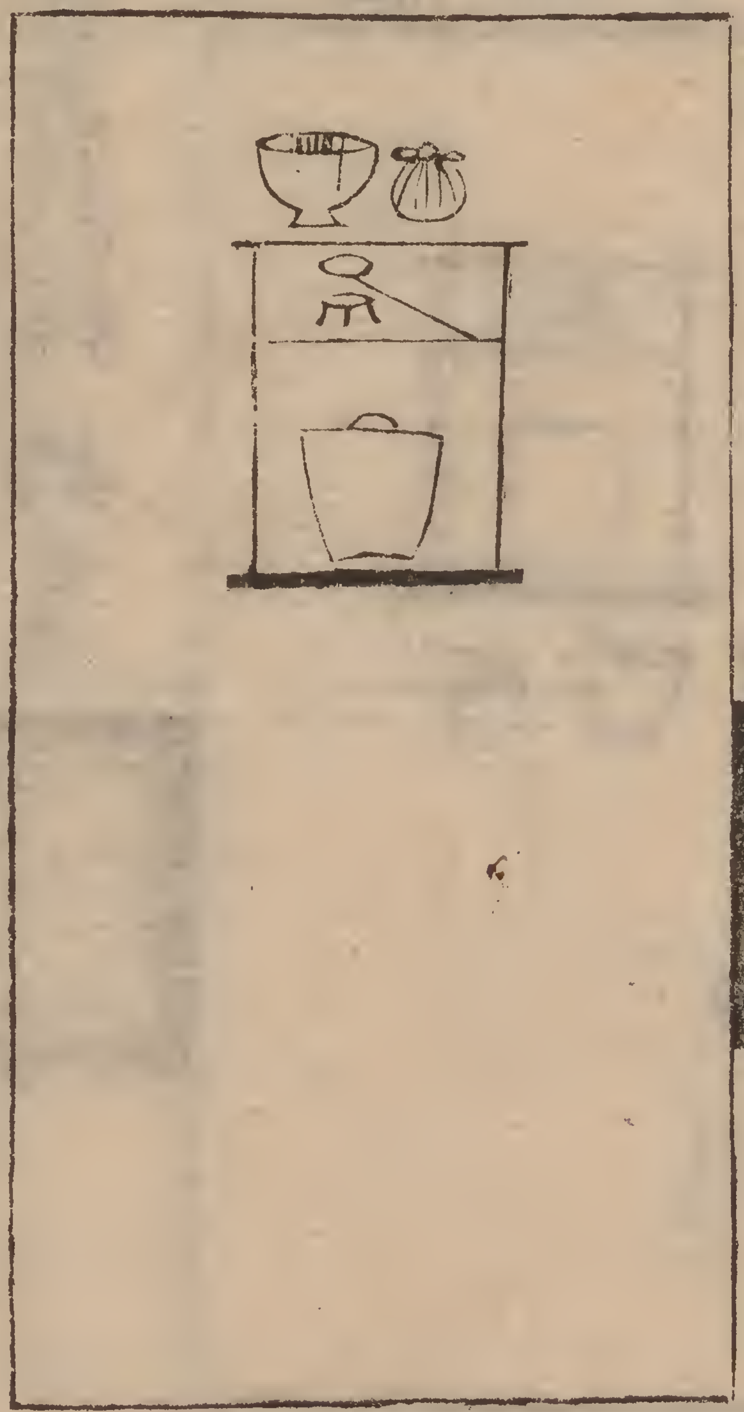
一 ちやたなのそうしきは三本として上のたなをば
ぢくゑに切るを付る也
一 上の棚に黒ぬりにもするも有
を付るとも
付る也

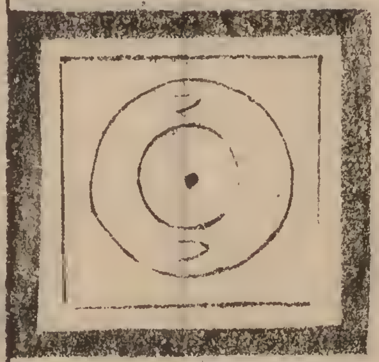




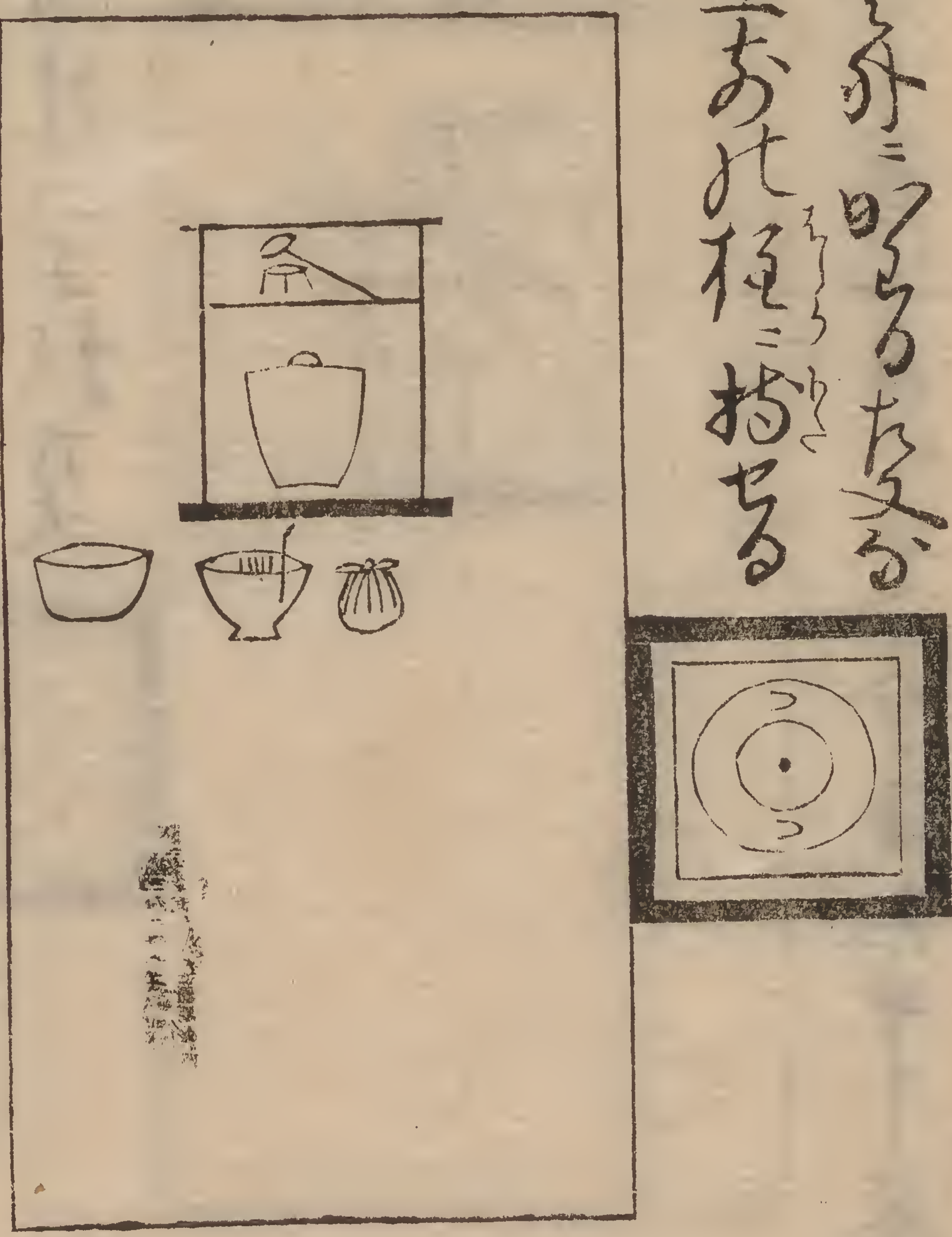
右のたなには硯小刀及書院の進言着也點てうち小刀
其外にして點前也口傳多し

一 四畳半棚の事
此は袋棚とも申して上はただたなと云利休也
時より置く茶入并荘飾也
を置又茶碗并口ざ飾也
と有茶入を
床の棚の時分に
茶碗其上中
置之
水盆持出下に
置茶入茶碗下に置いずれいして茶碗丸出し茶入
袋ぬぎ荘飾れども茶碗丸出し茶巾上掛

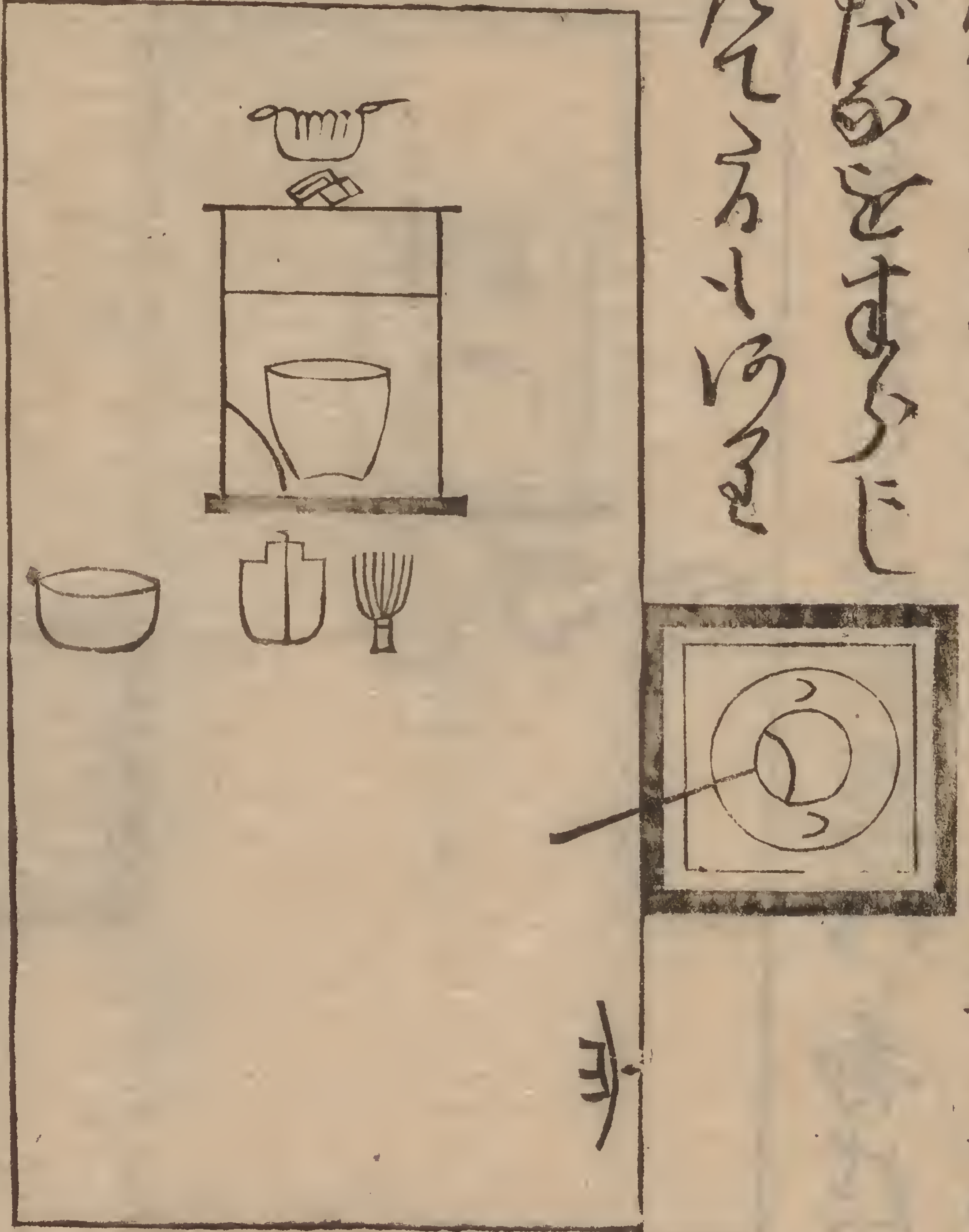




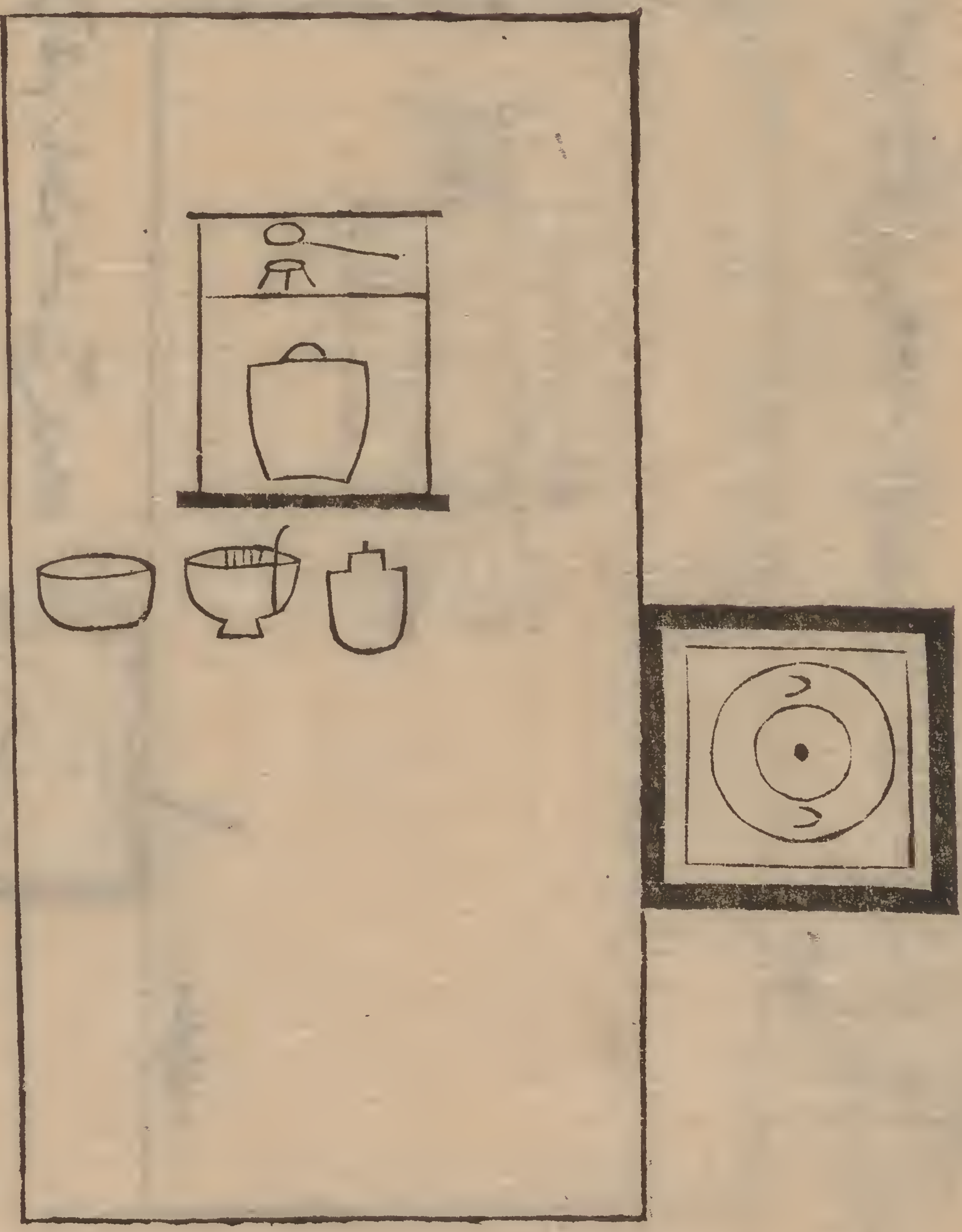
巾左ニ掛かざり蓋置を出し釜の蓋取ひらく
の湯を入るゝも外ニ定りたる事なし
し水指の蓋あけ柄杓ニ掛せる
水指とこぼしけ
飾の花の蓋
大の時ハ三尺を
大のごとく心得べし
蓋置け置也
一 茶入の蓋下だなニ置く也
一 此手前ハ此手前也茶ハ手前のことと心得
此棚の内ニかざるなり



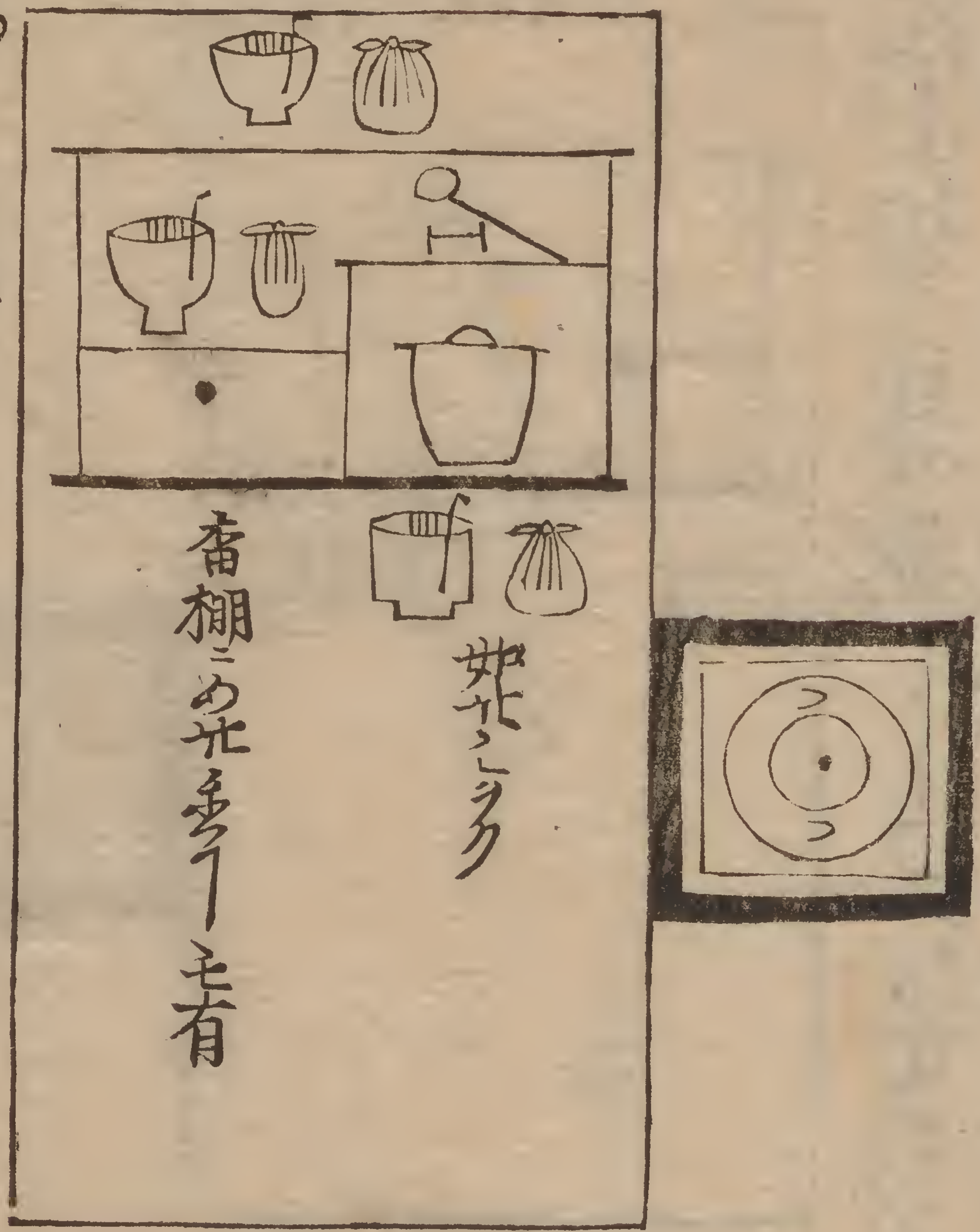
一 右棚の上ニ此荘だな茶碗四方を見合せ置
一 此棚ハ利休だなと云四方也長サ九寸四方也又さきだな
とも云文中だなをもすみだし
て戸を二枚たてたる也
一 四方五寸の作たる棚
あまた
一 利休だなそ
三方を板ニ
して前ニ戸を付つまミをそへて戸を入れ候すりく
一 此棚ハ三尺ニ候ハ背板棚と云



右台子の飾にかはりなりと紹鴎點し候ハヽ肩衝四方
たつるなり四方盆にのせてかさるなり

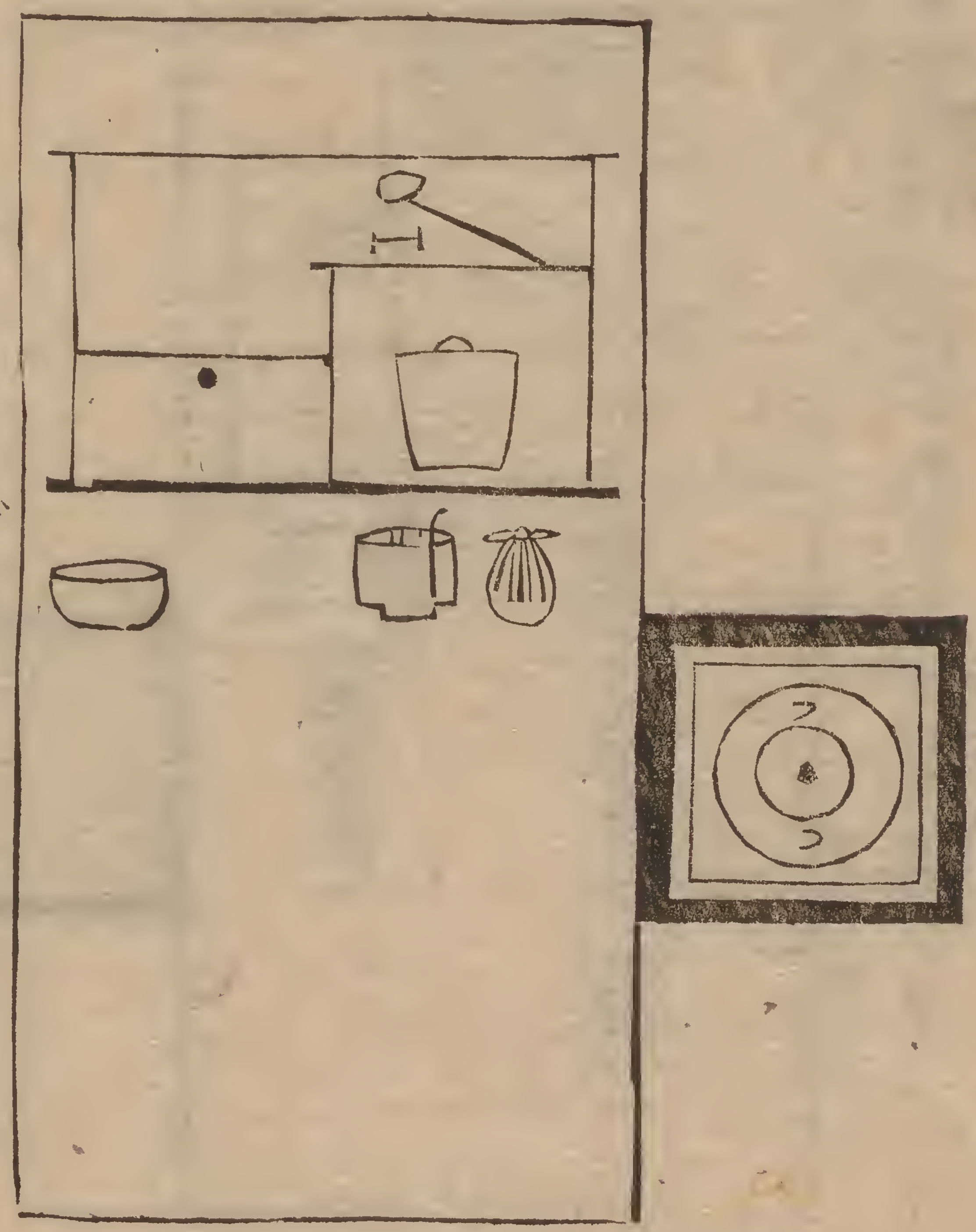


四畳半手前棚之飾之事

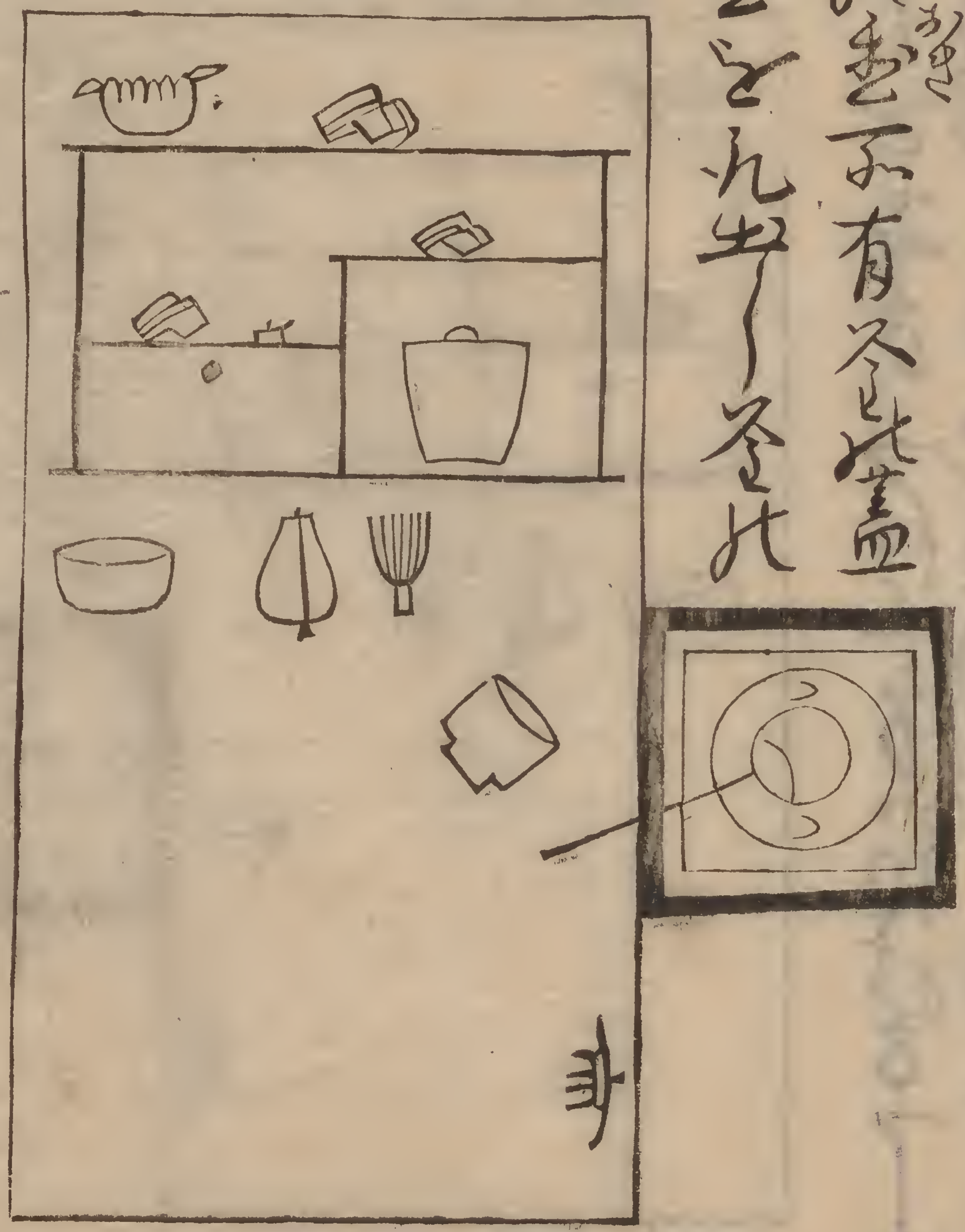


一右ニ荘花茶湯を此心得ある事也

一 おく荘たる台子のよふに見ゆ 扇とく上のたゝみ下し棚
飾の内より水盃を取出し居ず居て 客へ一礼をいふ
茶碗を取出し常のごとく 薄茶入を取出し茶巾を

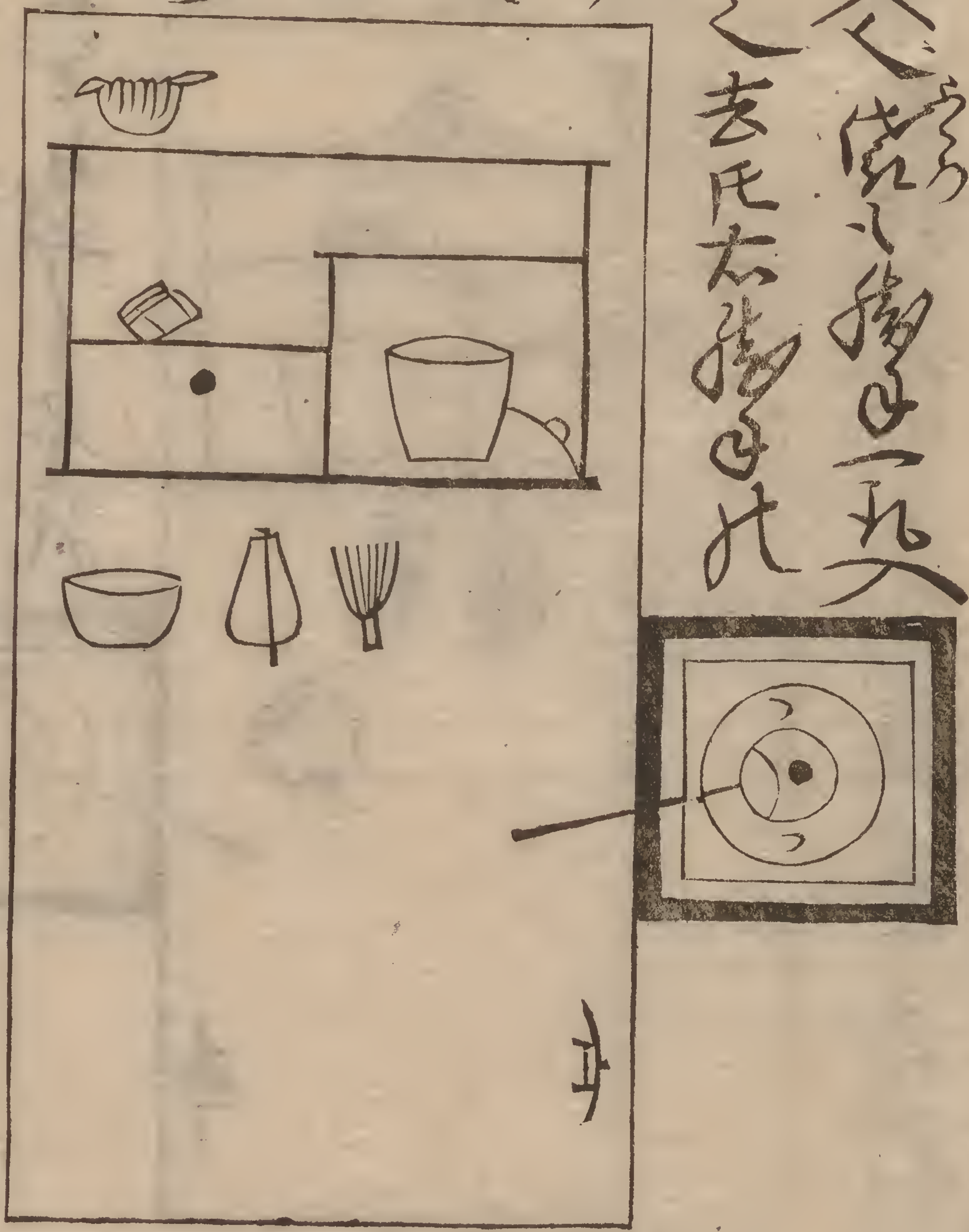


扇のごとくたゝみの台中へ上巾ひ中の事まろ板をまえへ
くずして荘るを外より右の事なし 茶巾上るは扇
一 のごとく台の内に蓋置あり 是は蓋
と取には蓋置を取出し釜の
蓋を柄杓と
取事とはる
又台子の蓋
置を取出しひ
しやくをかけおき



ますとはまて是心得の事也 此時蓋は前の様と
水指とをあざけて置つもはまに下に水を大へ

一手水さしハ常のことし皆くたなへ上水翻
升柄杓ハ入て袋ハ柄杓の上へ
一右柄杓用し之右の右柄杓の
袋たなと云す
ハ世間ニ多くあれく
当流の好の所
又袋のたなの
戸ニ後ろ有の



戸はすりつまミを右方ニつけ一方ハ口はなして
台ハ左右ニ用棚を用ひ如式ハ相極ミ白木ニすへく
見本後之又他人わるとくのかりて用ゆ心得可申也

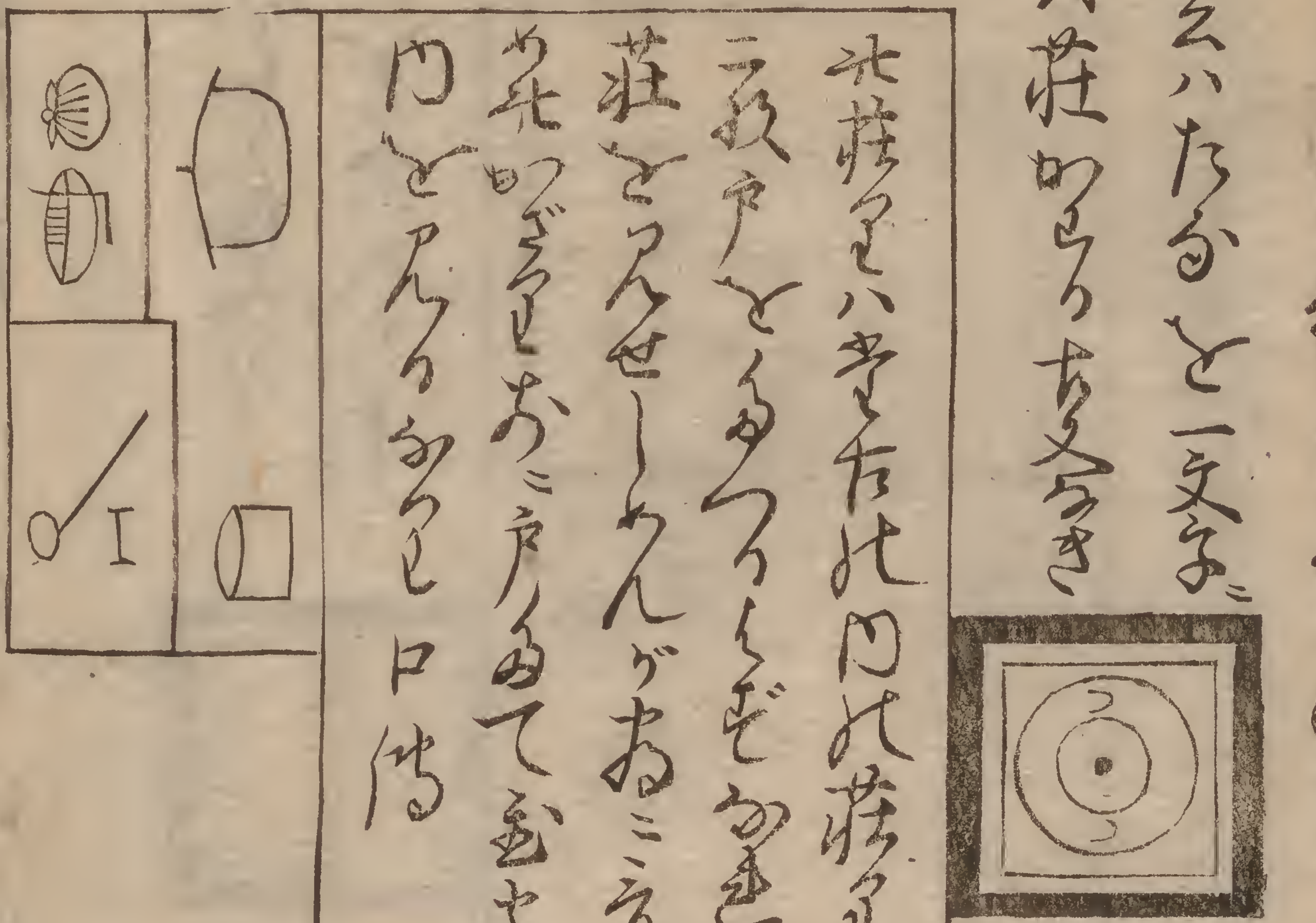
同しく此袋たなの茶の手前の事

一おのれ手前ニかはりたる事なし
水指の右あを茶入置中ニ
まずり茶碗ハ
炉の角へ筋違ニ
て置之水指の
蓋ハ中のたなニ
置板ニ立て

とらせ置也右を茶の外へわくのとかくのこし

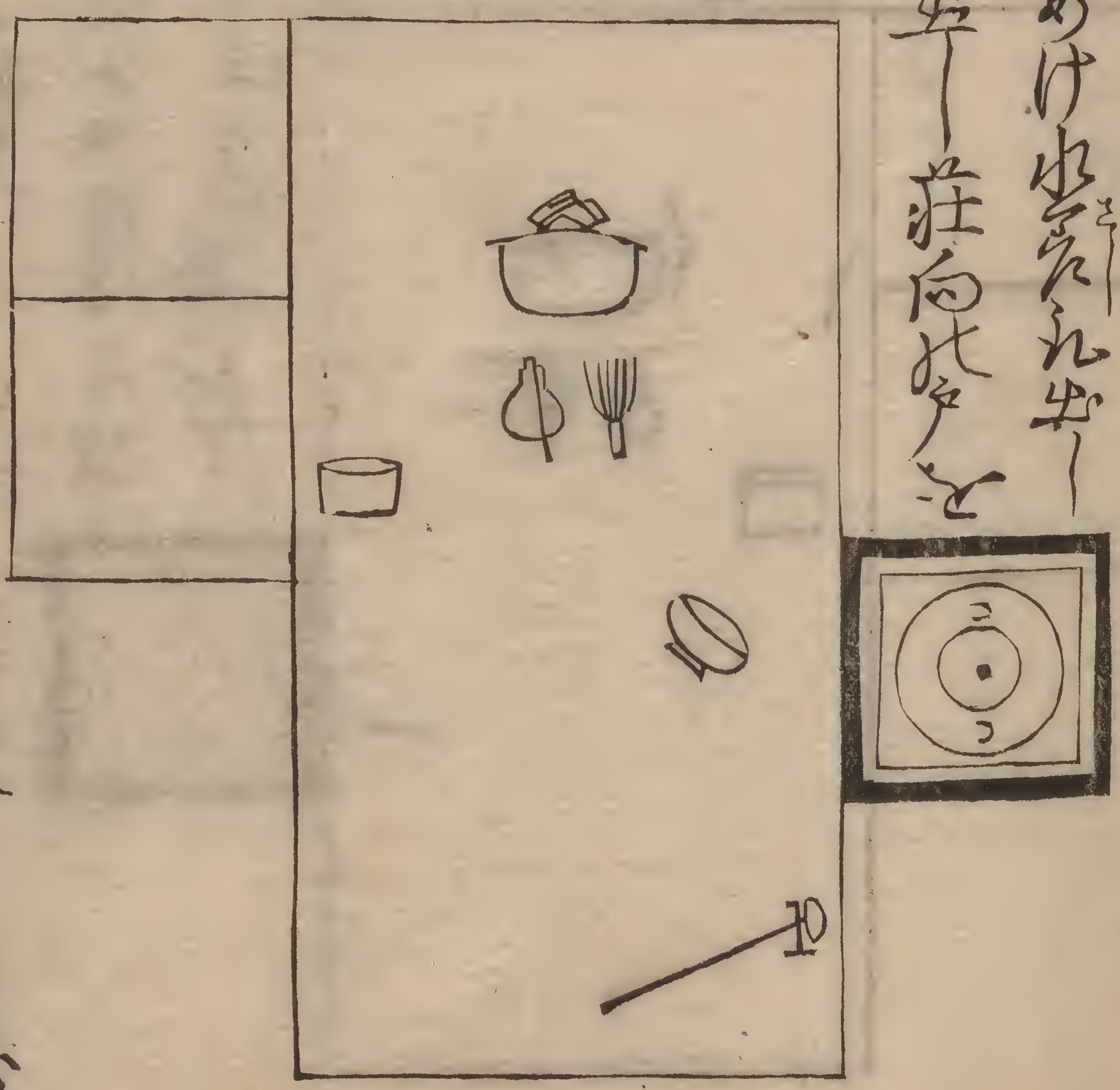
四ツ寸飾り台子の事

一利休台子と云ハたるを一文字
ことつり道具荘りやうも大方さき
故繁ニ不及
略ス

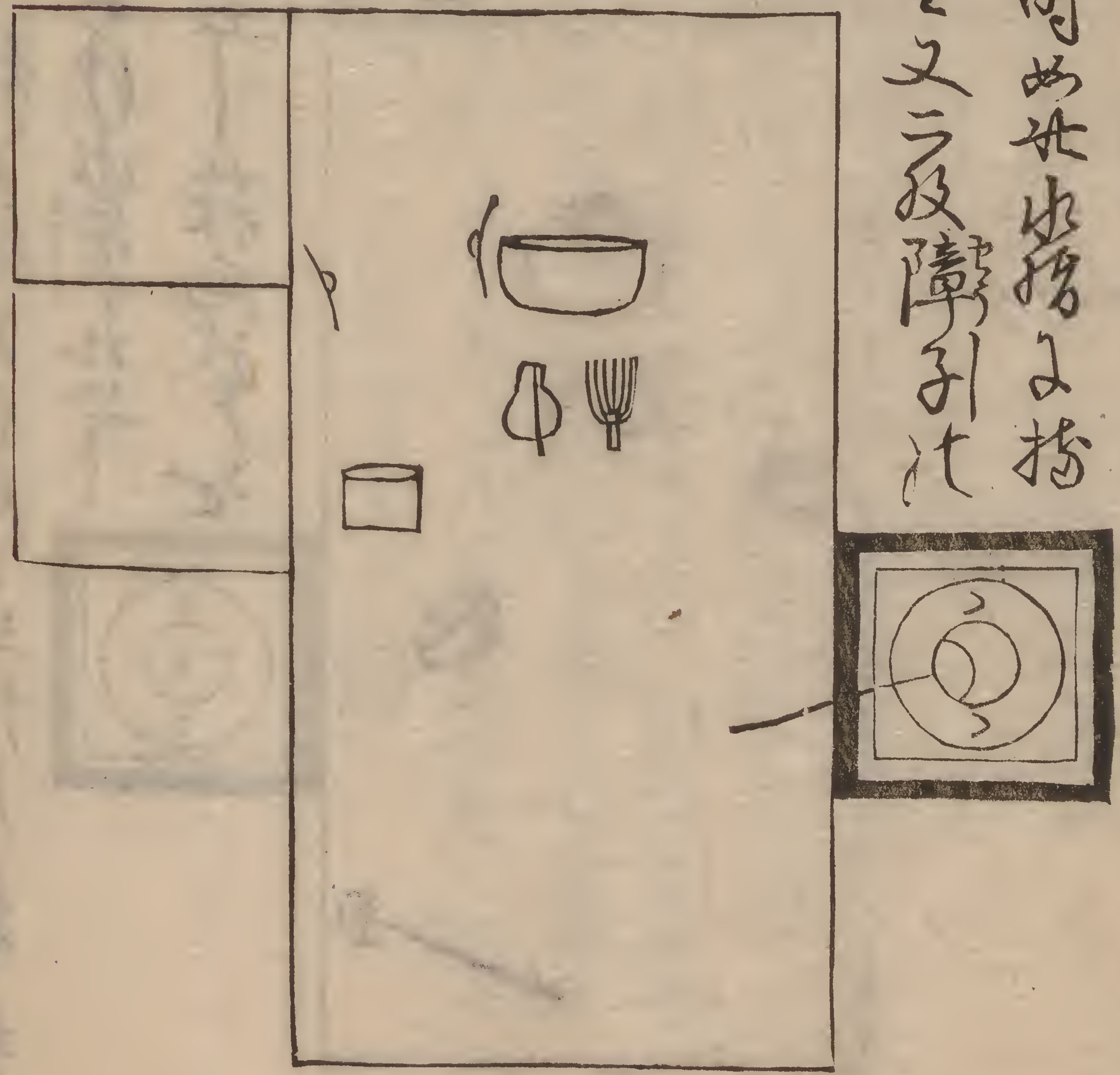


此荘りやうハ台子の内の荘りやうにして
二段の戸とよくよくぞ内の内の
荘りやうせしかんがみることに肝要ス
花のかざりやうハおこ戸をみて出し入て
内と見るべし口伝

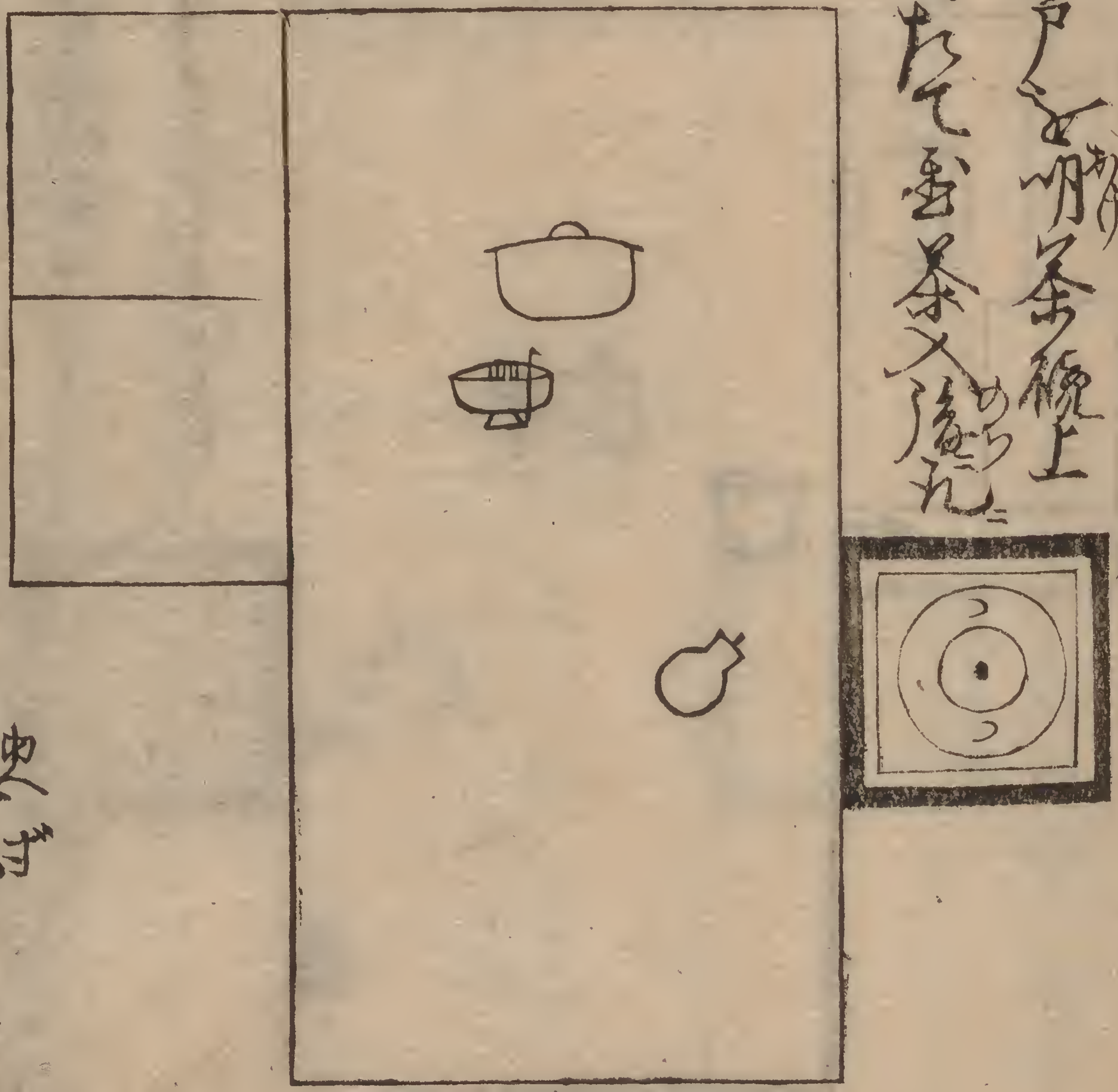
一此時のハ帛紗を腰にさゝき出次の間へ出て台子
の向の戸をあけ水さし出し
茶入茶碗出し荘向の戸を
たてある戸を
あけふさぎされ
出し常のごとく
茶をたてかけ
たし水盃を
し次の間へ
居候居して
時ハ飾子の内に従くあれ四方すまひのごとし懐紙



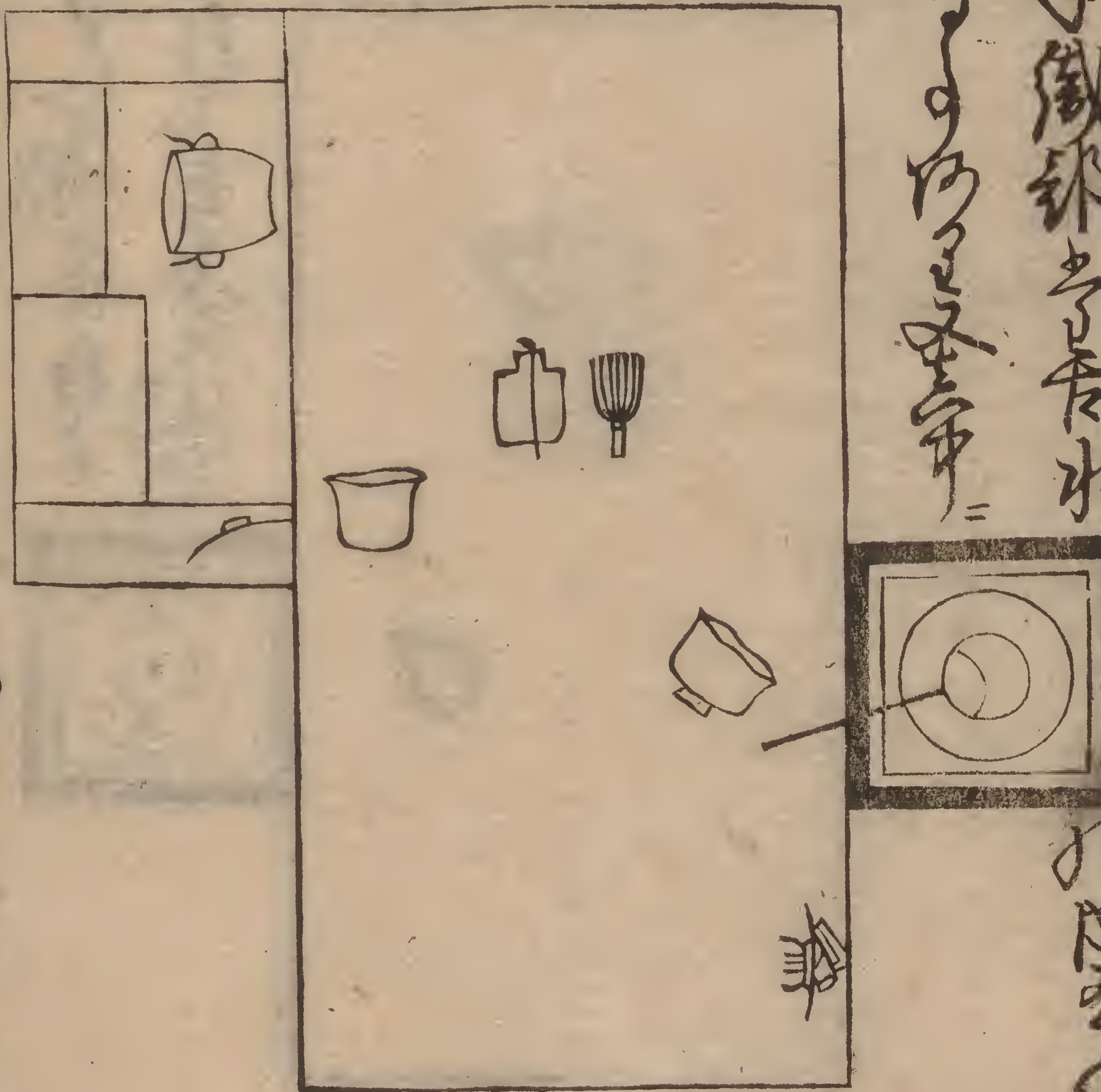
水指ハ蓋ル时ぬ出 水指ニ指
畳古文ヲ何望又二段障子ハ
至ゟ世高ニ指世お
く支ヲ何望て
置ハ必ず
濃ニ茶入を
置る



お水戸をぬひすく蓋置水盃入るを置茶入
巾ひ出し向ハ戸を明茶碗上
置き水指入て置て置茶入隠れニ
よおる畳を
一 茶杓右の通ニ
して泡ニ付る
有時ハおす
おまめら支画
一 三畳大ニ置
古虎太尺ニ入り
廿もお心ニ入鶏也すら文字故高ニ座



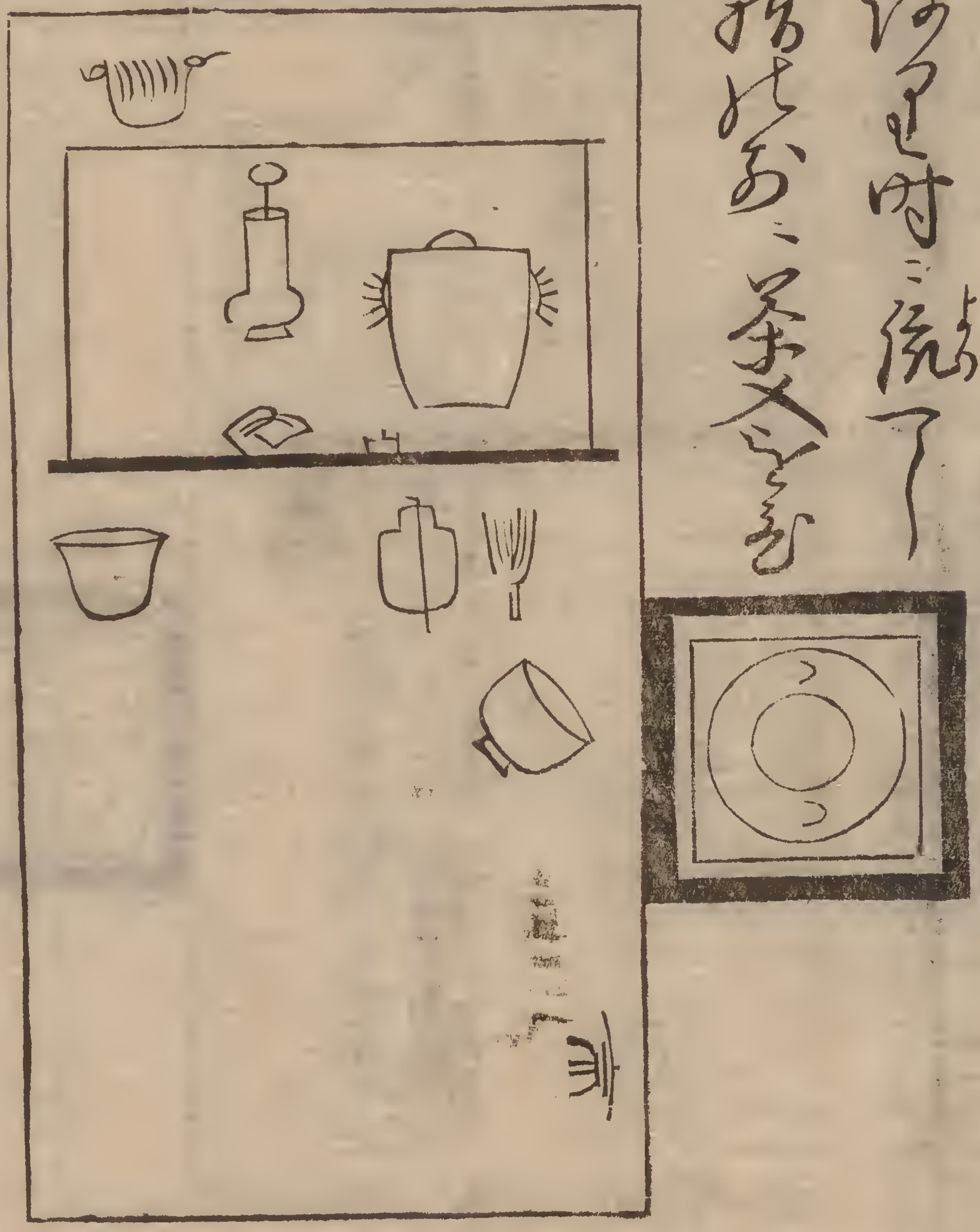
一 一つ手より台子右の左に爰點る時は右の文の通りなるし
　同じ手に鐵瓶よりも水
一 茶碗ならべ立るも同じ事常に
　持出すこと有りはこび置かるゝ
　茶入袋は心得あるべし
　ものは數寄の道
一 立出て大に茶水
　柄杓に置て點る
一 一通り次に茶水
　柄杓に置て點る
一 右様子台子の炉に茶點る事口伝



右台子(だいす)右には先に出る通り中へ茶碗一通りに持出し茶
入茶碗九出し常に水指蓋置を出し置く也
同じ事半炉數寄の事

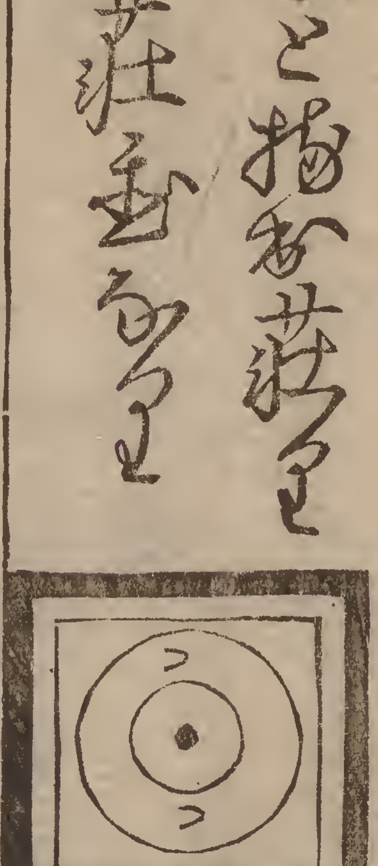
一 台子右には帛紗茶巾
　掛けてよく出
　下に蓋置(いずい)と
　立て茶入茶碗とならべ左の方水指とならべ
　いる柄杓を居(いずまい)置く梅(き)を見(じき)にて

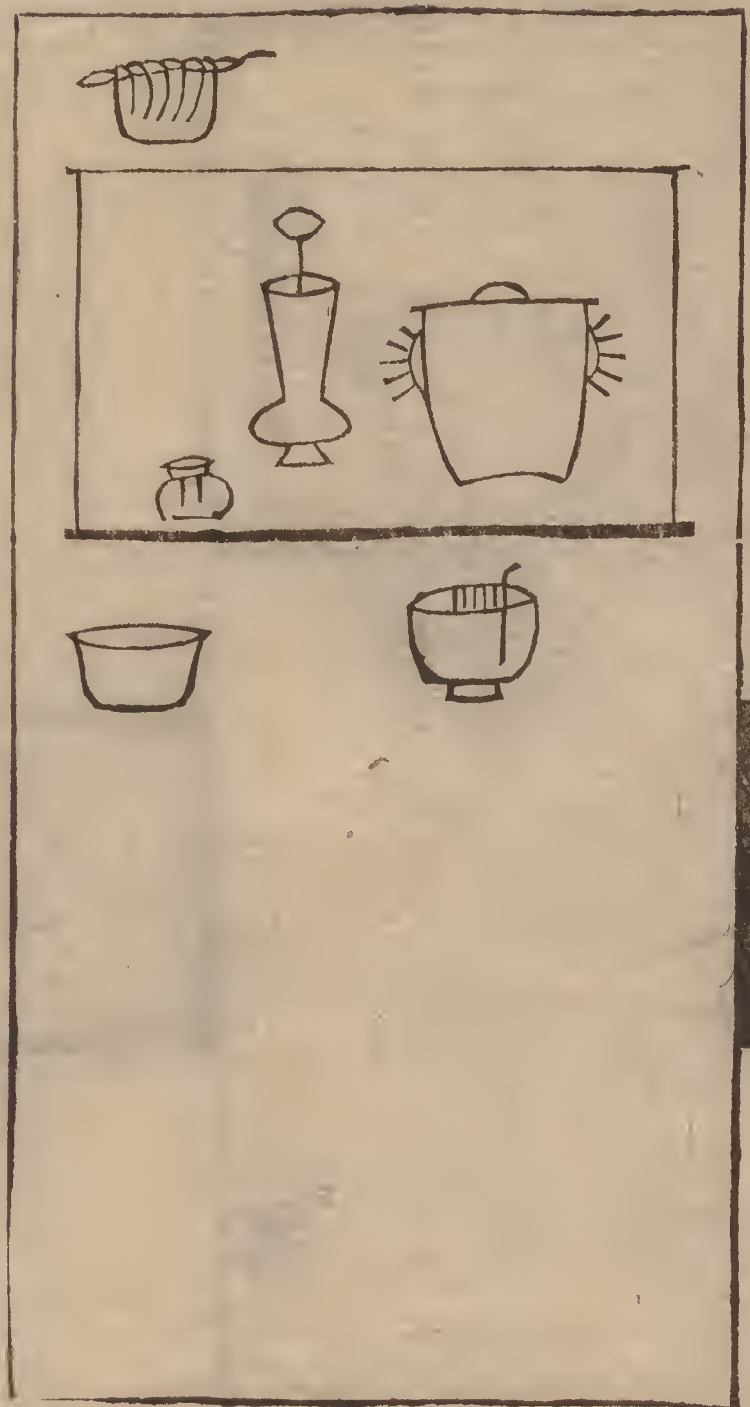
前のごとく荘りハ盞の荘り置之又盆子の建盞に乗盞
よりかざり直すも常のごとく時に從て
又茶入の時ハ水指の前に茶入をすへ
茶筅を炉の
角へ捌遣て
置也茶碗を
又茶筅茶巾
上茶碗の也こし
蓋置を取出し釜の蓋を取帛紗巾揃にてさつと拭ひ
しくさ柄杓の先ぴつたと向き上一川指せ手を下へ
こぼさぬやうにさげぬき出シ又を揃移のやうに置しぬ



水指の蓋をとり柄杓立の前に立て又も常の水指と
前の捌きの方にすじかへに置又も常のやうに又ひしやくを立
の脇に揃て手の方に置事を
常のごとし

葉治茶入ハあれおあへ出し茶碗に持猪子へ入候
蓋茶入と茶碗と指南荘候
也也水盈指出荘也るなり
口伝





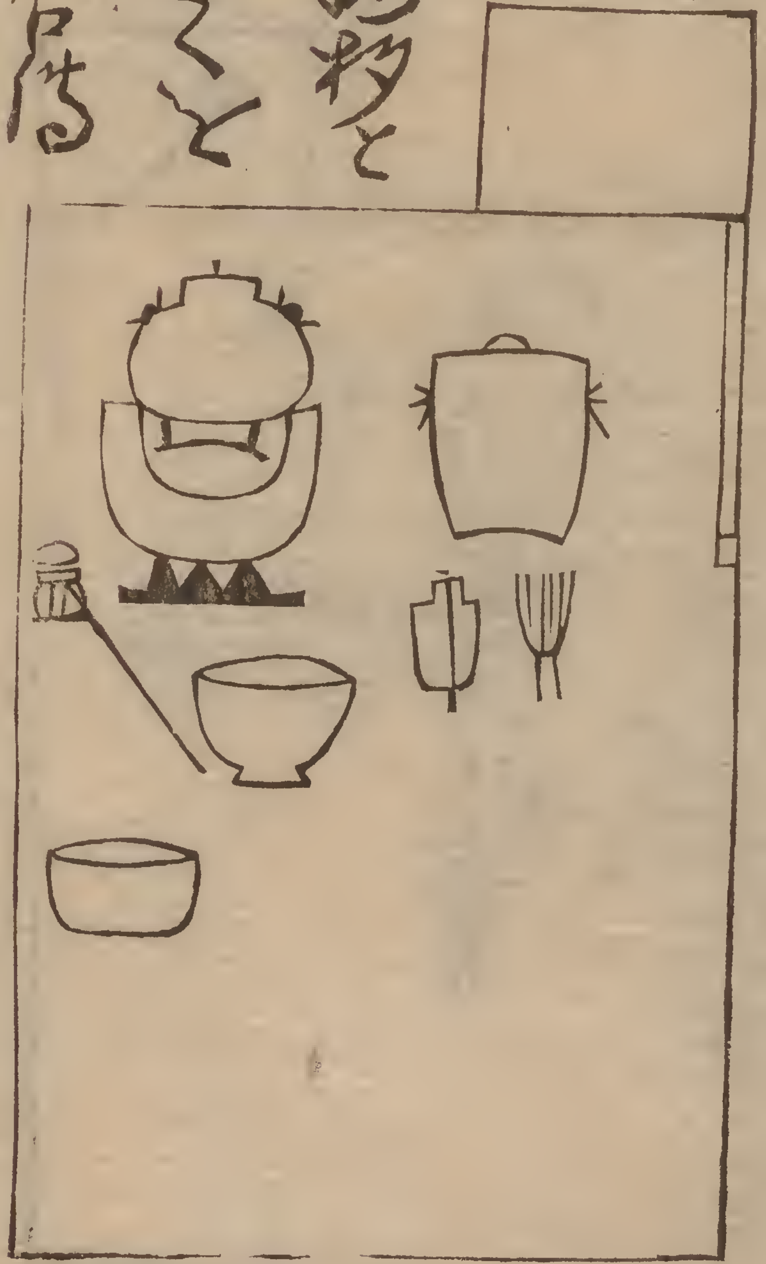
一 右猪子ニ同方之かなりわかし茶入れ袋ハ何れもと
猪子れ方天上(てんじやう)ニ也之

風呂まおれ事

一 風呂れ小板向て寸八歩縁れ色目数ハ九メニ也
一 月大板ハ向ニ寸八歩縁れ色目数ハ五メニ也

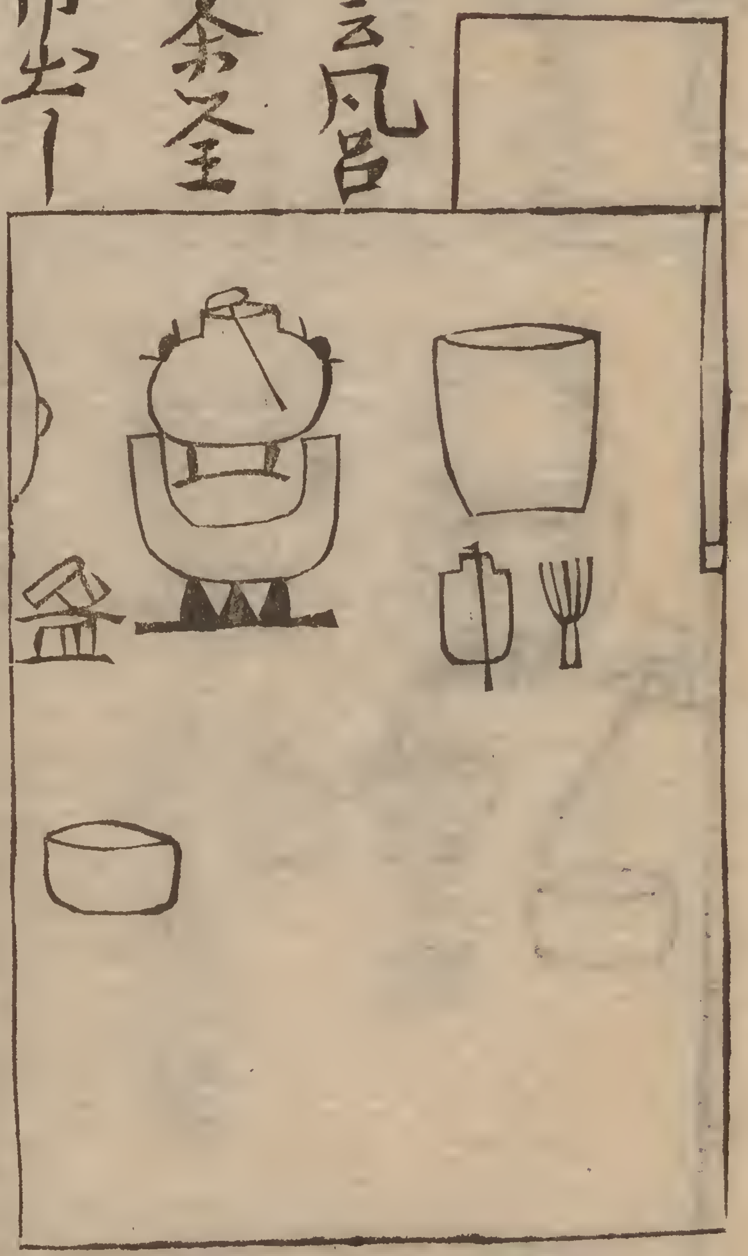
一 茶まお八夏四月朔日から八月晦日迄れ也ら其故ニ夏
まおなれハ水盈へ蓋置入指おれかく也い
ずれの時も蓋置也れ出し也ひやくけ茶碗

夜風呂ハおくニ置大焼ハ向ニ置茶入袋ニ入て出し
餝る茶碗ニ茶筅茶巾入出し湯よく置風呂ハ
小板ぬぐひ茶巾上ニ置茶碗を小板一ツへ入て出し置柄杓
又釜ハ蓋を取湯を
と一ひしやく入釜ニ
すゝぎてあき柄杓と
茶碗ニ置之此ひしやくと
蓋ハひしやくを取居



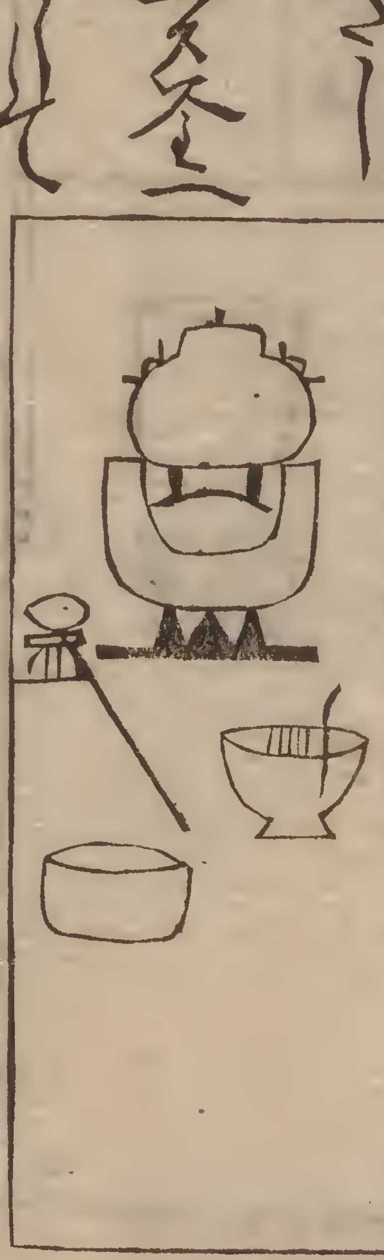
茶釜ニ湯を汲てかけ上かるを見下に置き茶巾
茶碗を上湯を捨巾ひとつ下ニ置茶巾を
取て釜ハ蓋ハ上へ向け茶杓を蓋を小板ハ

又釜茶を能ほくニ入て茶入へ出し茶碗
し茶を廣げ茶入へ向け水指は蓋をひしやくを取
此火ハ又口湯水一ひしやく茶ひしやくて湯をそゝぐ茶
碗ニ能ふくニ又
ひしやく釜へ入
置と切柄杓下ニ風呂
少し此切る茶釜
又は蓋を上幌巾出し



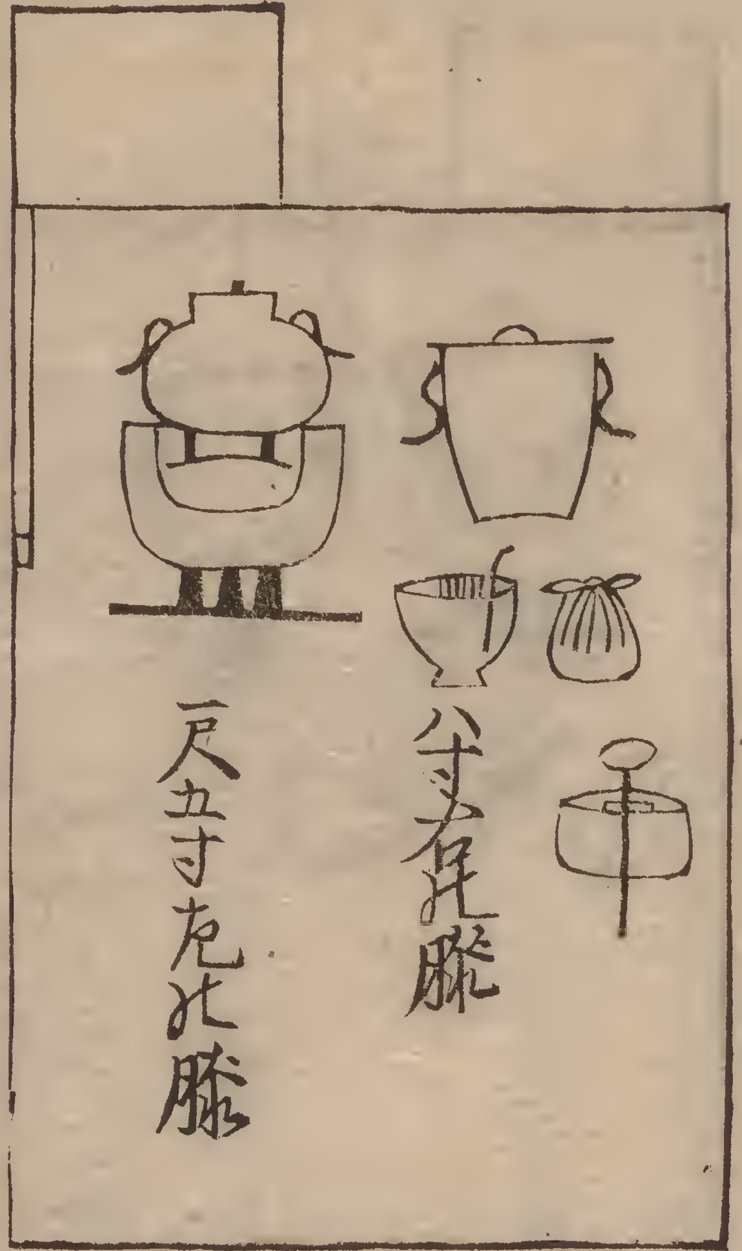
茶碗出し中ニ茶巾ひしやくて入て捨てと川
柄杓ニすくひて入釜の風炉ニ取てと八
又茶碗ハ取てとて下ニ置時

茶碗を一ツすゝぎ湯を入すて又湯を入建水へ入釜ニ柄杓
吹ク其時又茶巾茶筅にて茶碗をすゝぎ上に置へ
数し湯すて茶巾にて茶碗を入茶杓うけ手前茶碗と並
同荘所へ置け
右は荘所ノ図



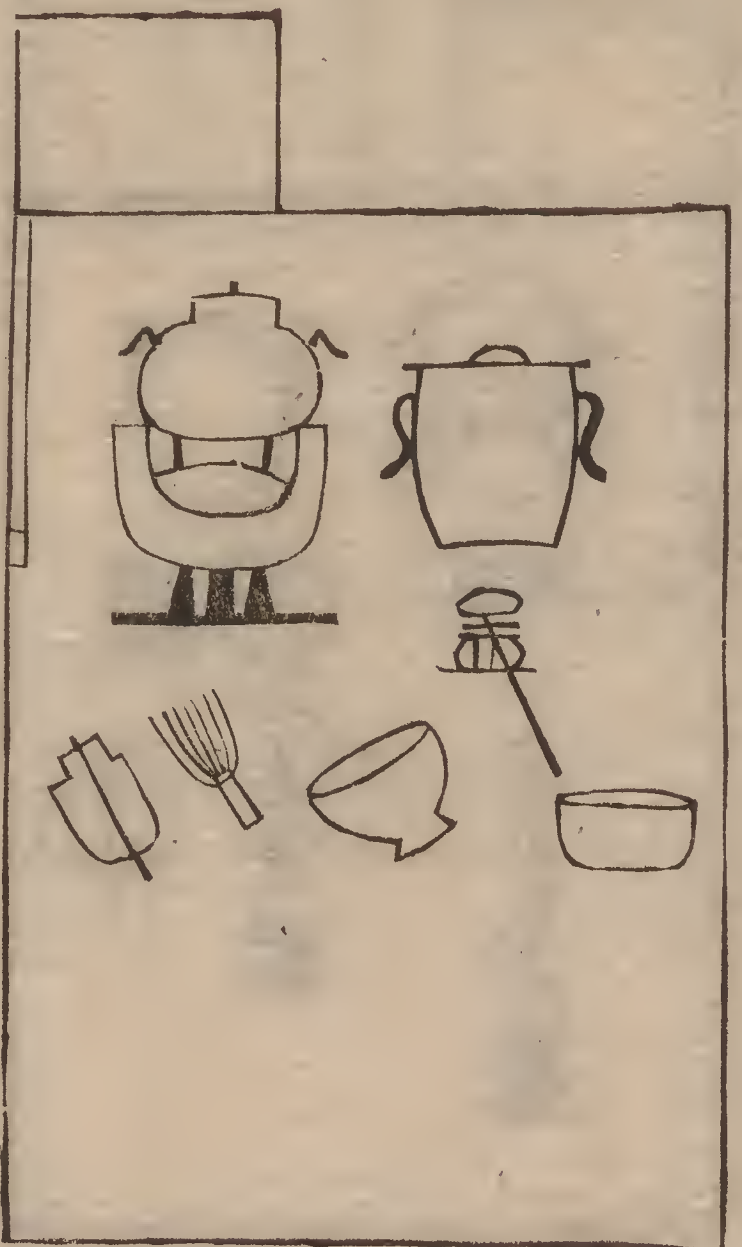
かくて八分にして
茶入れ右ノ手に出す釜に
水を入湯をさして
又は蓋して柄杓下に置水指の蓋して茶入袋と柄杓
蓋置水盆傍に置茶入茶巾常の通也
一 此風炉とあしらひ同し置所二ツ有

一 風炉の茶の湯はおとこ六一通りまての心と同し
風炉荘りの事



一 此まおおの荘りくわしく居所居も一通りまての
ことし小板にも大板にも曲尺ニとる

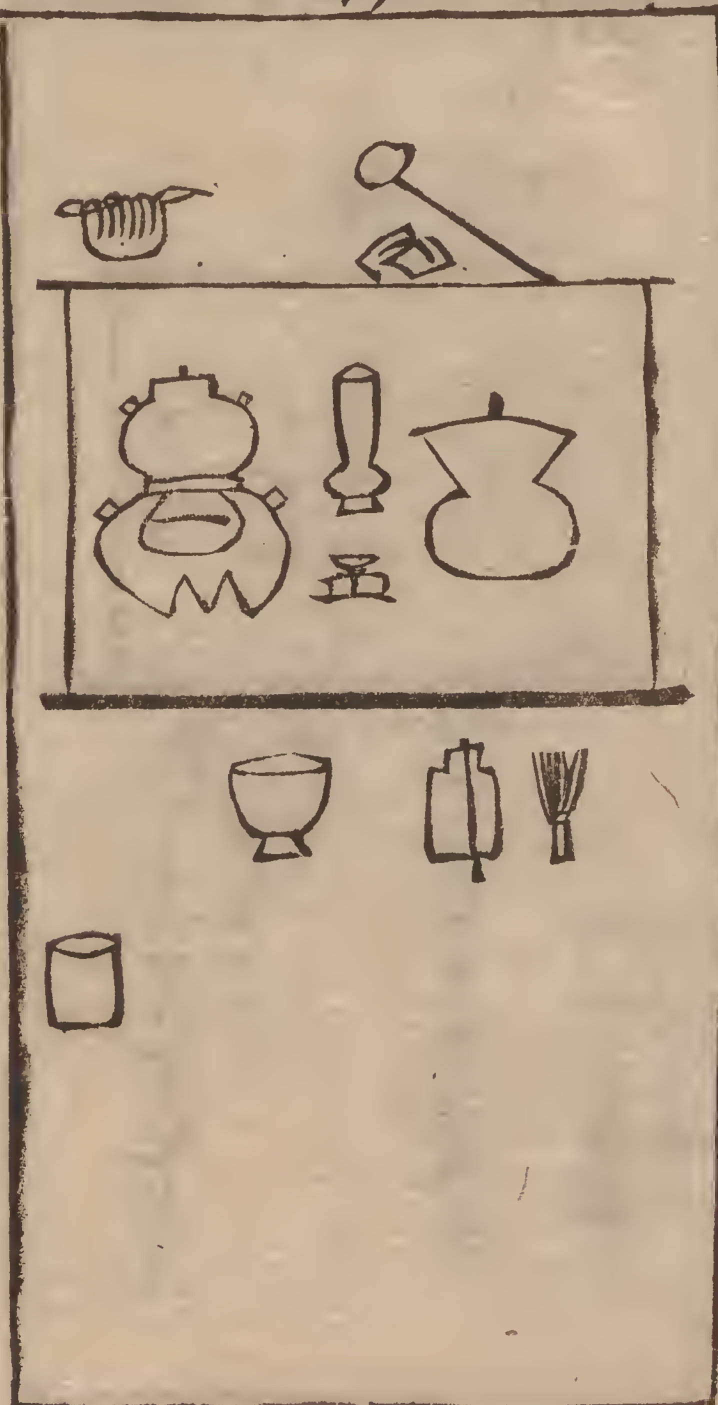
一 茶入茶筅ハ釜の下ニ置事ハ心ニ釜也 蓋置ハ釜ノ下ニ向て
左の中ニ釜大蓋ハ時ハ勝手ノ方ニ置也
一 此ヶ条ハたゝし左ニ點茶ても何れも如此るへし
一 此ヶ条も風呂ハ釜ノ下ノ方ニも勝手ノ方ニて
左の心 派者也 千利切りて文るへし



菓子并勝手よりの事
一 此よふハ膳ニならべ出て先此とく茶入茶碗ニ茶
ろし水盃をれて盃ハとく釜蓋置をれてひ立て
お点前居候ハ
してサ茶
碗乳出し左乎ヲ
二ツにて勝手
此方ニ釜茶入

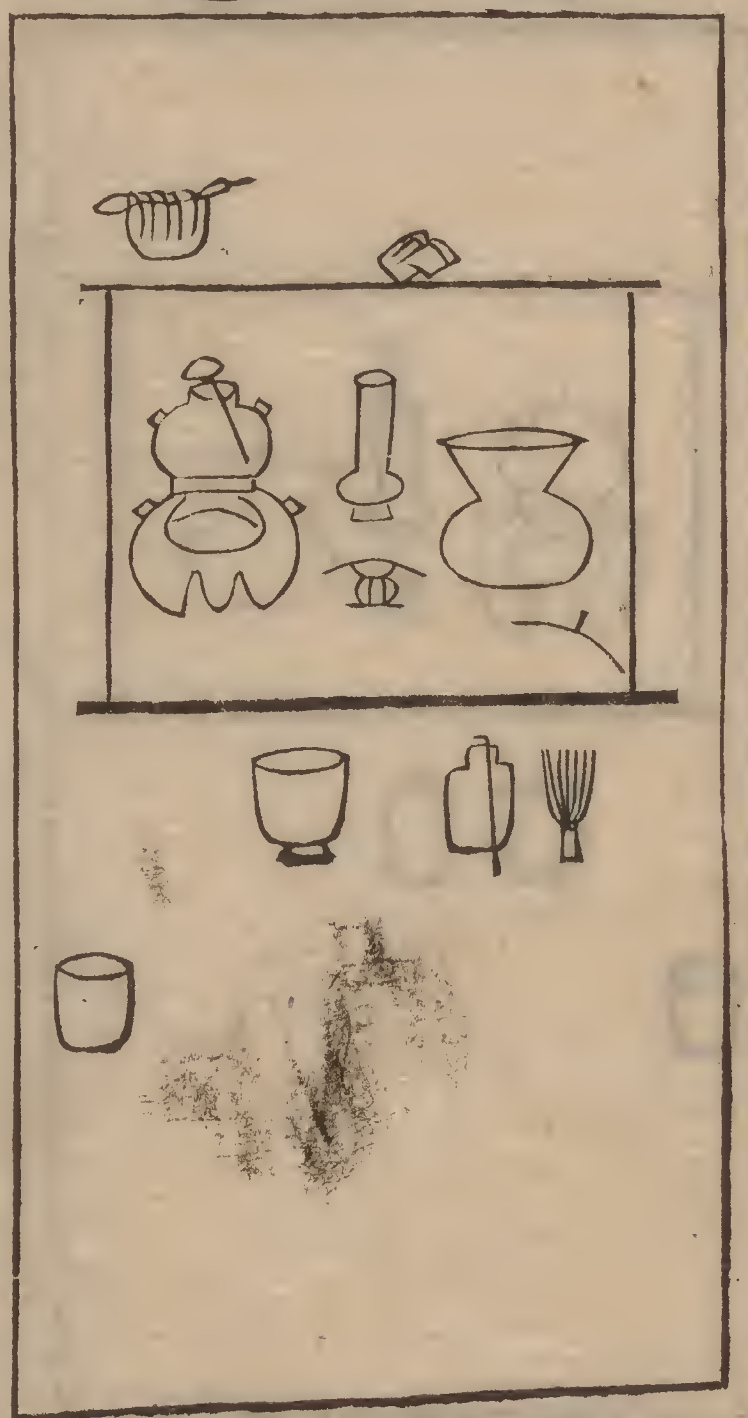
れ帛巾せぬき扇ハとく出し茶筅巾ハ茶入ニて茶
を丸出し扇ハ如此し一尺斗を帛巾乙巾ハ茶巾上
帛巾乙巾ハ茶巾上帛巾乙釜ハ蓋丸帛巾揃ニそさ

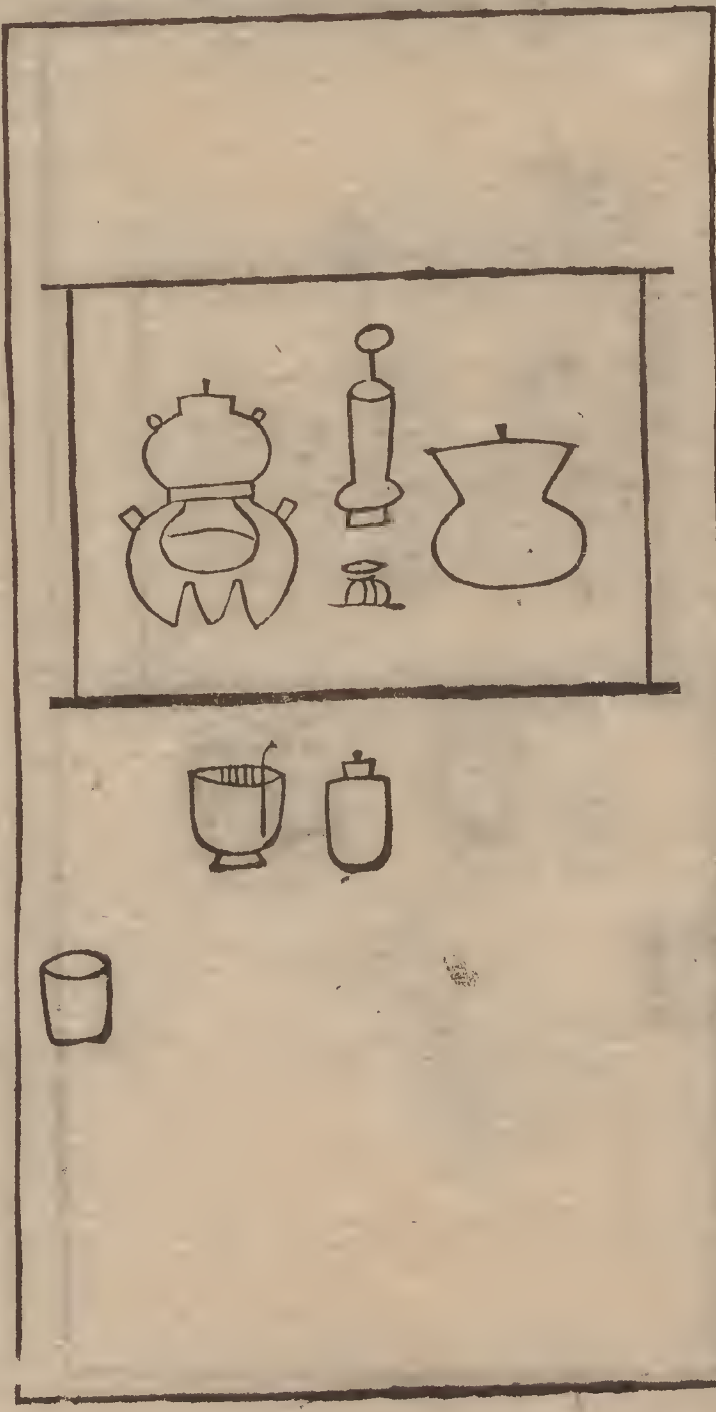
〆柄杓取て二服ニ及之湯ニ柄杓入釜の蓋しめ手柄杓
め扁天井へ引置き茶釜ハ湯次ニ汲て下ニ置き茶巾
たゞみなからなだ此如く又畳付て湯を茶碗
ぬき茶巾挹め
上茶杓ハ茶入
ハ釜をのる茶筅
茶碗ニなけ茶入
め平ニ置し茶



隠げ取茶杓茶入かけ釜の此蓋ハひざ元ハ湯を入る
加ひよく之茶碗ハ始て帳巾おし茶碗おき中茶ひ
岩し此もんて柄杓ハひらく立ニ作し置き門帳巾取りと

と釜の此蓋ハ水こぼし此蓋ハ水つぎハ作を引柄杓おき
茶碗取りと洗ニ茶筅ニかけるしよし湯すゝぎ引柄杓
茶巾すゝぎ置ひらく又茶筅を茶碗ニ茶巾茶杓を
茶杓入茶入れ
壱つの此茶巾
と申入れテニ
四ニ割ると置
釜へ水を作し



蓋しめひらく立ニさきを水こぼし此蓋しめ
茶此よく無き時茶入を置きて其後おきとし
一 茶を出し候茶は茶かいまだ茶此時茶入茶

□ますじりへ立るなり
一右掛物ニ同文之踏まかる風炉の通之肩ニ置也
一菓子ニ天井上口本棚をれてち棚針し荘ハ無之事
すりまし
あし風炉と
同おなじ
一又菓子と云也
立置ハ二本
棚し上下ニ置候をすりしたるやう也ハ點前ハ常之如し
子此如ニ水指此蓋を棚ニ指せ置又ち棚ニ同置此前と
云又風炉冬を針置之外形外此物をこびりまかさ居る